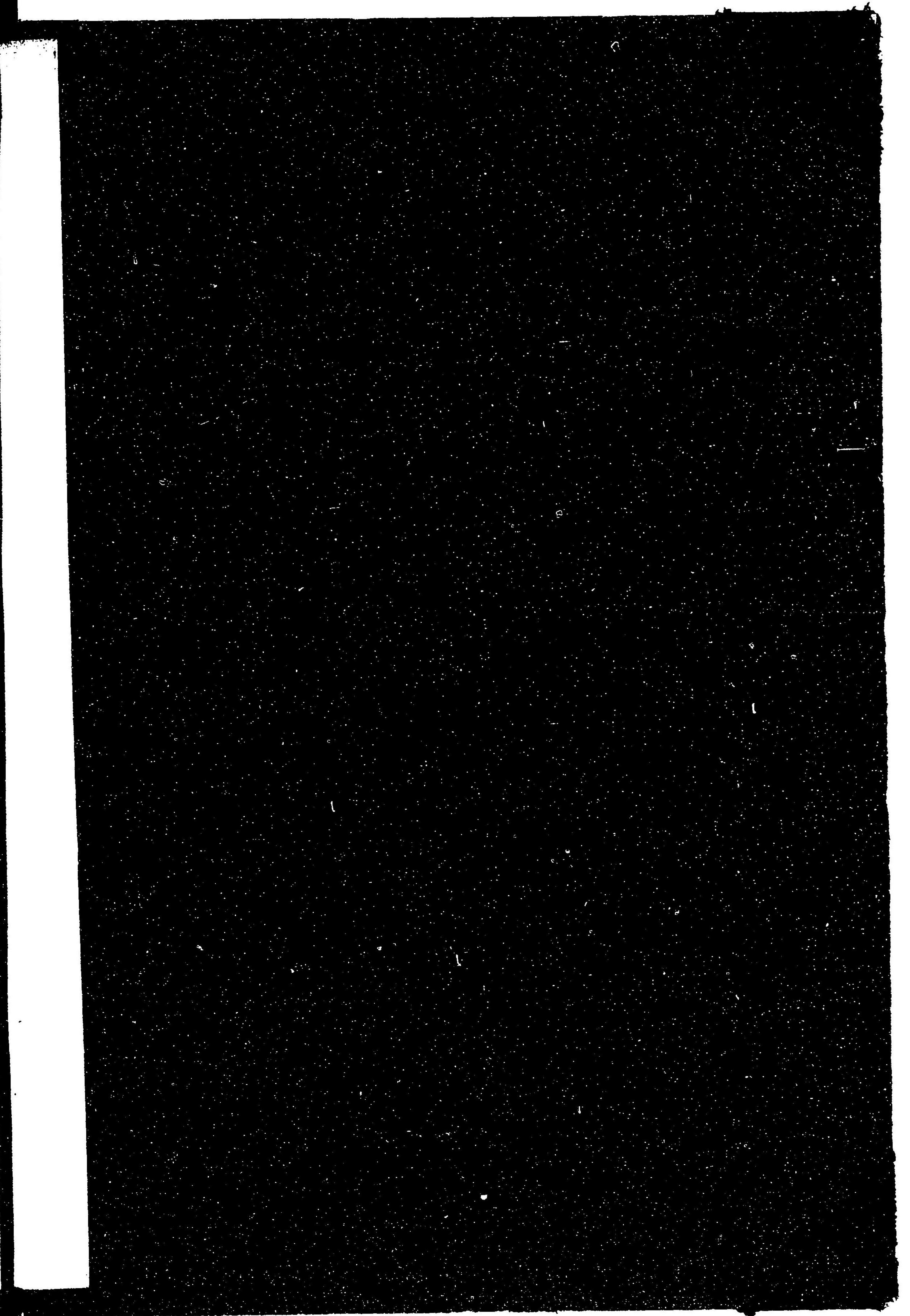
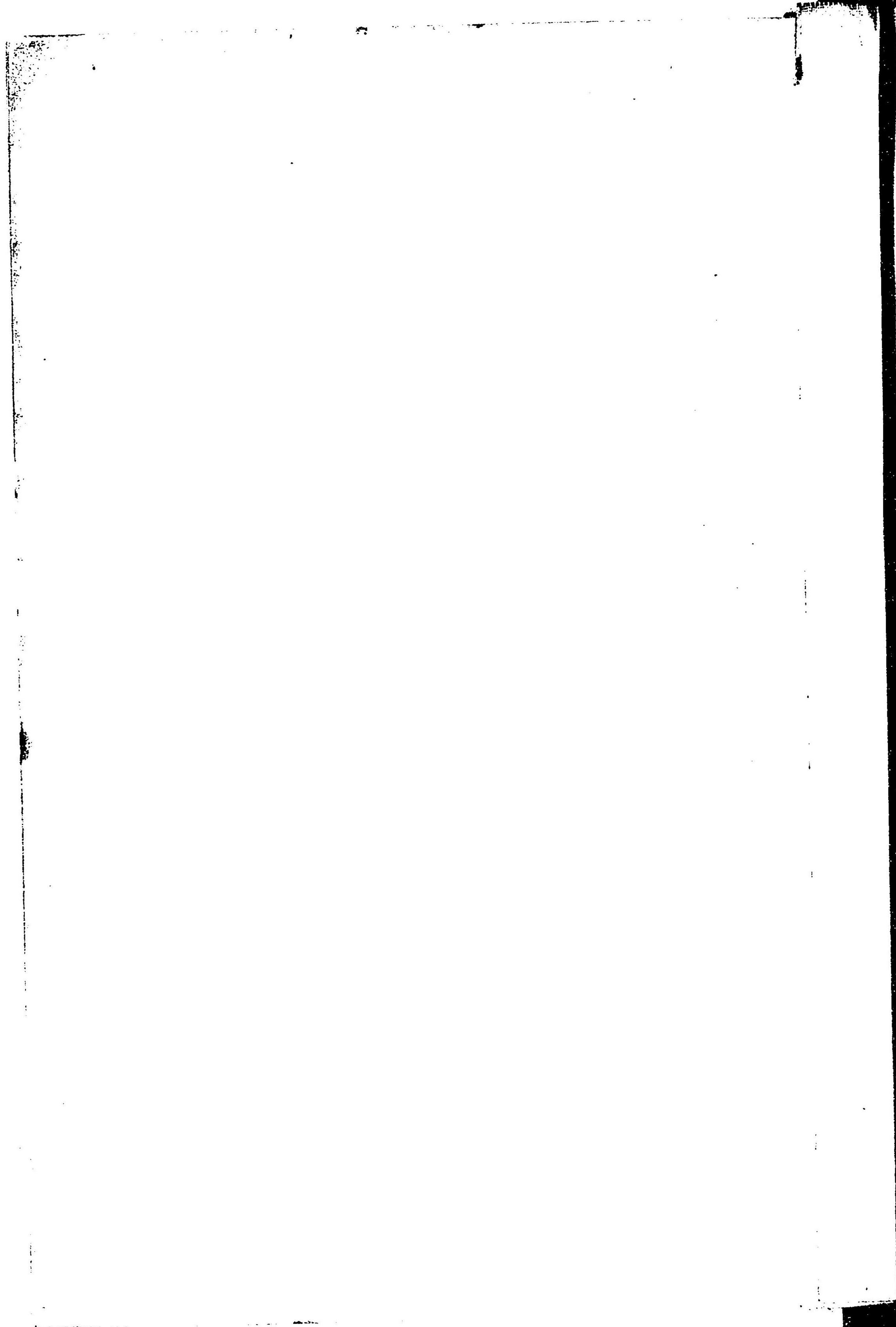


92  
208

福島縣機業取調報告書

山中安躬著



92-208



余等ニ命ヲ收校長駒井重格閣下ニ享ケ機織業調査トシテ福島縣ニ出張ス然レモ  
 在リテハ一日ニ満タズ加之不幸ニシテ屢々病魔ノ襲來スル所トナリ調  
 査意ノ如クモ見聞亦洽カラズ是ヲ以テ今ヤ稿成リ是ヲ閣下ノ坐右ニ呈セン  
 トスルニニ恐々懼々ノ情ニ堪ヘザルモノアリ唯夫レ閣下ノ一笑ニ附  
 モラレ深クハナシ矣

明治三十五年三月 日

専攻部二年生

山 中 安 躬



高等商業學校長寺田勇吉殿閣下

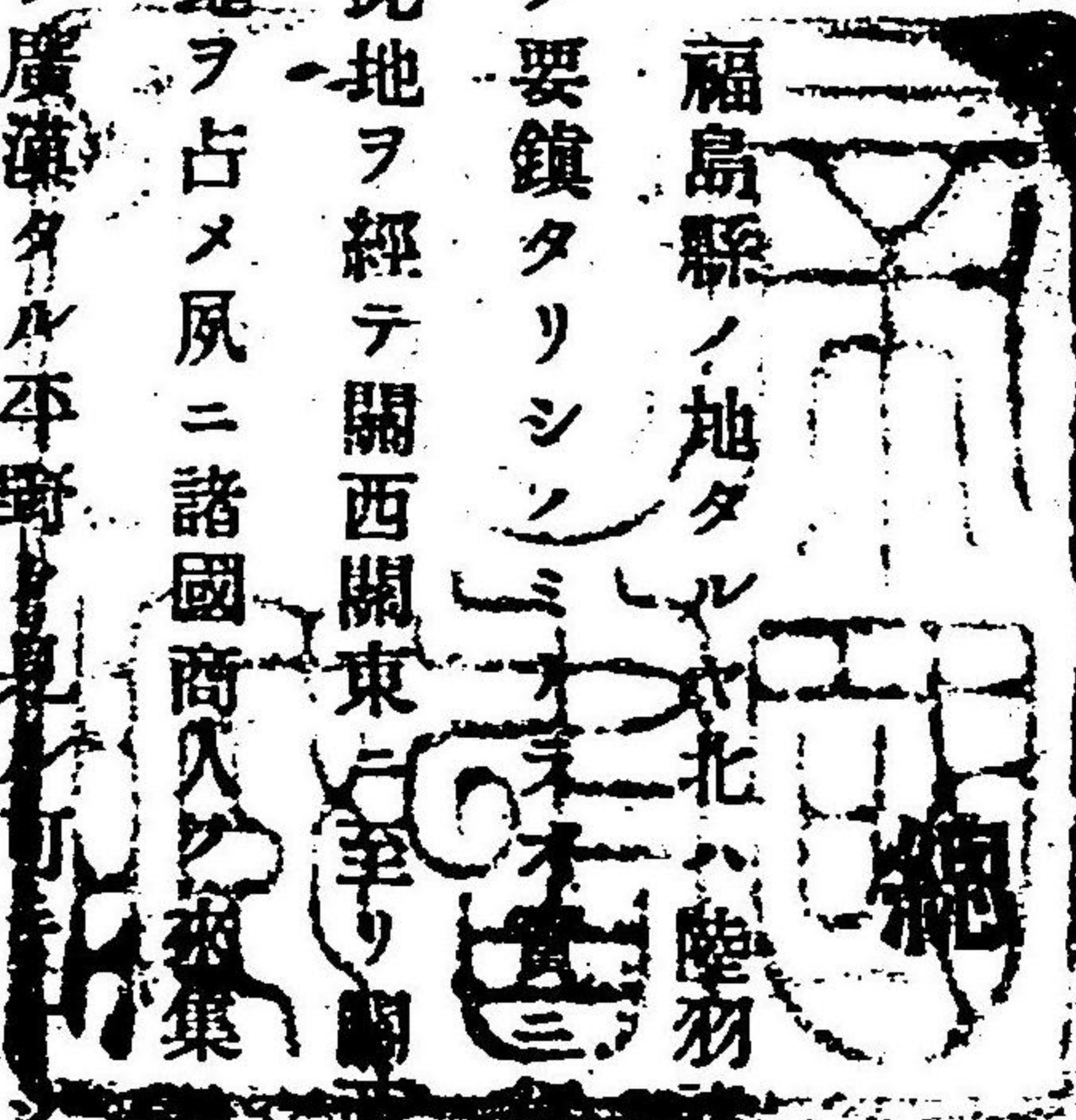
目次

概說

	頁數
第一章 沿革.....	一
第二章 組織.....	一〇
第一節 機業者.....	一〇
第二節 買繼商.....	一四
第三節 練業者.....	一八
第三章 機關.....	二二
第一節 組合.....	二二
第二節 檢查所.....	三四
第四章 勞働.....	三九
第五章 製品.....	五〇
第一節 種類及相場.....	五〇
第二節 産額并産地.....	五二
第六章 運送.....	五四

第七章	金融機關	五七
第八章	原料	六〇
第一節	產地產額及相場	六一
第二節	需要先	六八
第三節	問屋仲買	六九
第四節	運送	八四
第九章	結論	八八

# 福島縣機業取調報告書



## 説

福島縣ノ地タルハ北ハ陸羽諸州ヲ控ヘ南ハ遠ク隔テ、關八州ノ平原ニ望ム其古來東北地方ニ於ケル軍事上ノ要鎮タリシノミナラズ三陸經濟上唯一ノ要路タリシヤ蓋余輩ノ喋々ヲ俟タルナリ故ヲ以テ東北ノ物貨ハ此地ヲ經テ關西關東ニ至リ關西ノ貨物亦此地ヲ過キザレバ以テ東北ニ至ルヲ得ズ福島町ノ如キ殊ニ其咽喉ノ地ヲ占メ夙ニ諸國商人ノ聚集ヲ取引ヲ決了スル地トナリ頗ル殷賑ヲ極ム國中峻山高嶺縱横ニ起伏連亘シ絶テ廣瀨タル平野ト雖モ阿武隈川ノ清流ハ幾世變ラズ滾々トシテ國中ヲ横流シテツキズ以テ其沿岸地方ヲ潤澤ス從テ此等沿岸ノ地方ニ於テハ古來其産業ノ發達他ニ比シテ早キモノアリテ存ス殊ニ生絲機織兩業ノ發達ハ其顯著ナルモノニシテ中古ヨリ其名海内ニ轟クリ故ヲ以テ本論述フル所其名ハ福島縣機業ニ關スルト雖モ其實ハ阿武隈川沿岸地方ノ機業ノ狀況并ニ生絲事業ノ概説ヲ述フルト謂フモ取テ不可ナキナリ

## 第一章 沿革

福島縣下ニ於テ年々三百萬圓以上ノ産額ヲ有シ遠ク海外ニ輸出セラル、絹織物業ノ沿革ヲ陳述スルニ當リ余ハ先ツ便宜上之ヲ三地方ニ分割シテ説明セントス蓋シ其ノ發達進歩ノ階梯ニ於テ各特種ノ歴史ヲ有シ殊山又山谿又谿ナル當縣ノ如キ人民ノ氣質亦地方ニヨリ自ラ多少ノ差異アルヲ免レサルカ故ナリ

三地方トハ何ソヤ曰ク中央阿隈川沿岸地方曰ク西部若松地方曰ク東部小高地方是ナリ而シテ其最モ古キ歴史ヲ有スルモノハ中央阿隈川沿岸地方殊ニ川俣町附近ノ地ナリトス而シテ他ノ二地方タル明治年代ニ至リテ始メテ斯業ニ従事スルニ至リタルモノニシテ敢テ古ヨリノ産業ナリト謂フテ得ズ從テ當部分ノ沿革ハ以テ全縣下ノ沿革トスルニ足ル故ヲ以テ余ハ專ラ中央部分ノ沿革ヲ叙述スルコトトシ終リニ至リテ他地方今日ノ發達ヲ來セル順序ヲ少シク附加記載スル所アラントス

抑モ此地機業ノ淵源ヲ探究スルニ茫漠トシテ是ヲ知ルニ苦ム然レモ口碑ノ傳フル所ニヨレバ八皇第十六代仁德天皇ノ朝ニ胚胎セルガ如シ即チ帝ノ時三韓ヨリ渡來セシ秦峯能ナル者其女小手姫ト共ニ當地ニ歴遊シ親シク時人ニ機織ノ法ヲ教ヘタリ而シテ親ハ子ニ授ケ子ハ孫ニ傳ヘ依テ以テ漸次其隆盛ヲ來シ遂ニ今日ニ至レリト而シテ小手姫ハ遂ニ當地ニ死ス時人之ヲ德トシ一祠ヲ造リテ是ヲ祭ル祠及其寓居ノ趾今猶ホ大清水山ノ中腹ニ存ス

然レモ近來ニ至リ同地有識ノ士等本業ノ餘暇ヲ以テ日本書記及其他種々ノ古文書古記録ヲ蒐集調査シタル結果前説ノ誤謬ニシテ正鵠ヲ得サルヲ發見セリト謂フ而シテ其結果ニヨレバ其始期ハ斯クノ如ク古カラスシテ猶後代人皇第三十二代崇峻帝ノ時ニアルガ如シ則同帝不幸ニシテ逆臣蘇我馬子ノ爲メニ弑セラル、ニ當リ皇女小手姫亦御身ノ不安ナルヲ推セラレ逃レテ斯地ニ來ラル是ナン當地ニ斯業アルニ至リタル端緒ニシテ而シテ其秦姓ヲ名乗ラレタルハ蓋シ御身分ヲ隱庇シテ賊ノ銳鋒ヲ避ケラレンガ爲メナリト謂フ且ツ秦姓ハ元ト仁德帝ノ朝三韓ヨリ文物百貨ヲ輸入スルニ際シテ來朝セシ機織ニ秀テタルノ士ニ給ハリタル姓氏ニシテ遂ニ

機織ニ長セルモノ、一稱呼タルニ至レリ此ヲ以テ皇女ノ尊ニアリ此技ニ長セラル、モ其尊ヲ隱サル、ノ今日世人ノ信ヲ得テ斯業ヲ教ヘンニハ秦姓ヲ稱セラル、ヲ以テ其得策ト考ヘラレシニ由ルナリ傳ヘ謂フ小手姫ニ二子アリ一ヲ錦子ノ王女ト稱シ此地布川ニ薨セラレ一ハ八子ノ王子ト申シ奉リ飯豊山ヲ拓カレタリ飯豊山亦其遺物ヲ保存シ其證跡歴然タルモノアリト謂フ是ヲ要スルニ小手姫ノ秦姓ヲ稱セラレタルヲ以テ而モ秦姓ハ仁德帝ノ朝ニ於テ三韓人ニ與ヘラレタル姓氏ナルヲ以テ時世ノ變遷ニ從ヒ其時代ヲ混淆シテ斯カル傳説ヲナスニ至リタルモノナルベシ何レニスルモ當地機業ノ由來スル所ノ古キヤ知ルベキナリ故ニ此地附近ヲ總稱シテ小手郷ト謂フ又北方ニ當リテ小手川ト稱スル河アリ以テ他郷トノ境ヲナス維新前ヨリ此地方ヲ一般ニ曰シテ川俣ト稱スルコトアリシモ町飯坂町小綱木ト謂フヲ以テ普通トセリ其判然川俣町ト名クルニ至リシハ明治九年ニアリトス此川俣ナル名稱ニ就テモ諸説アル處ニシテ區々トシテ一致セズ然レドモ其最モ普通ナルモノニ依レバ大和高市郡ニ川俣ト稱シ今猶絹布ノ生産セラル、地アリ皇女元斯地ニ居ラレシコトアルニ起因スト謂フ降テ藤原秀衡ノ白河ヲ守ルニ當リ大ニ佛法ヲ信仰シ佛像ヲ崇拜シタリ此時安達美絹ヲ積ンテ是ニ贈リ好評ヲ博シタリトハ史上ニ見ルノ事跡ナリ而シテ川俣ノ地タルヤ元安達郡ニ屬セシコトアルヲ以テ此安達ト稱スルハ蓋シ川俣ノ地ヲ指示シタルモノナランカ依テ以テ此頃既ニ良質ノ絹布ヲ產出シタルヲ知ルニ足ル然リ而シテ町ノ入口ニ小手郷ノ郷社アリ古來勅額ヲ掲ケシト唱ヘ來レルモ今調査スル所ニヨレバ保元平治ノ時代藤原則長ノ筆ニ成リタルモノナルコト分明ナリ又春日神社ニ秀衡ノ奉納セシ卷物掛ケアルト謂フ共ニ此時代ニ當リテ藤原氏ノ此地ヲ統治セシノ證トスルニ足ルベシ近世ニ及ンテ當地産絹布ノ隆盛ヲ極ムルニ至リシハ萬治年

間ニシテ人口著ク増加シ機業亦大ニ振興シタリ蓋萬治年間ハ徳川四代將軍家綱公ノ時代ナリ然レモ天常ニ人ニ幸セズ天保四年七年天明三年七年ノ四度ノ大飢饉ノアルアリ餓殍道路ニ横ハリ民皆生色ヲ失フニ至ル從テ人口ノ減少頗ル甚タシク相馬郡ノミニテ廿萬人ノ死者アリシト傳ヘラレ復タ舊時ノ觀ナシ十年前ノ調査ニヨルモ猶未タ天明以前ノ人口ニ達セズト謂フ以テ其災害ノ如何ニ大ニシテ而モ當地機業ノ發達ヲ沮害シタルノ程度ノ如何ニ大ナリシヤヲ回想スルニ餘リアリト謂フ可シ而シテ今ニ至ルモ猶未タ恢復セザルガ如シトカ元來此地ニ於テ製セラル、製品ハ紅絹ト稱セラル、モノナリ又輕目物ニシテ夏時炎熱ノ候ニ當リ武士ノ着用スル羽織ニ用非ラル、平絹ナリトス元來夏時炎天ニ際シテ着用スルノ羽織紗ナランヌ下衣透シ見ユルニ拘ハラス此地ノ絹布ヲ用ユレバ下衣ノ見ユサルノミナラズ却テ輕キヲ以テ大ニ賞用セラレタルナリ實ニ其輕キモノニ至リテハ三十三奴ノ品ニ力ヲ入テ丸メ當百錢ノ穴ヲ通スルコトヲ得タリト謂フ而シテ其製品ハ江戸ノ三井呉服店及西京ノ商人ヲ經テ多ク販賣セラレタリ然ルニ幕末ニ及ビ戰亂絶ユルノ日ナク武人ハ東西ニ轉戰シ殺氣紛々タリ焉ソ衣服修飾ニ顧慮スルニ違アラシキ從テ之ガ唯一ノ需要ノ途ハ茲ニ全ク杜絶セラレテ次第ニ衰運ニ趣クノ止ヲ得ザルヲ致セリ而シテ明治七年ヲ以テ其最極トス後チ安場保和氏縣ニ令タルノ時輕目絹ハ最早時勢ニ適セザルヲ以テ改良ノ急務ナルヲ説カレ西京ニ傳習生ヲ派遣シテ西陣織ヲ傳習セシムルトナレリ傳習生京都ニ止ル三年餘ニシテ歸リ紡績會社ニ入ル然レモ染工思シカラス結果良好ナラサリシヲ以テ遂ニ之ヲ廢シタリ斯ノ如クニシテ傳習生派遣ノ効果ハ直接之ヲ脩ムルコトヲ得サリシト雖モ隱然機業再興ノ一導火線トナリ即巾七尺長サ之ニ應ズルノ白紗ノ蚊帳ヲ作り博覽會ニ出品シタリケルガ大久保内務卿ノ購求スル

所トナリ賞牌ヲ受領シタリ是ヨリ川俣ノ名聲再ヒ漸ク揚ル其後一人蚊帳ヲ種々製作セシガ良果ヲ得ル能ハスシテ止ム次テ三井呉服店ノ注文ニヨリ取引ニ用ノガ爲メ辨慶斜子ヲ織リシヲアリシモ一時ニ止マルノミ右ハ大久保利通時代ノ景況ニシテ即明治拾年頃ノトス其後數年或ハ本羽二重ヲ製織ニ從事シタルコトアルガ如シ當川俣絹織物業ノ沿革ハ以上述べタルガ如ク非常ニ古シト雖モ其片羽二重ヲ製織スルニ至リシハ實ニ明治十七年後ノ事ナリ蓋シ斯年掛田町ノ絹仲買商安田利右工門氏ノ横濱ヨリ注文ヲ受ケ來リテ當町齋藤儀右工門氏ニ織ラシメタルヲ以テ其濫觴トス而シテ製品練上クノ如キハ凡テ是ヲ上州桐生町ニ持行キテ之ヲナサシメタリ然ルニ土地ニ適セシト見ユ明治廿二年ニ至リテハ產額モ大ニ増加ノ傾向ヲ呈スルニ至リ其取引高モ亦從テ多キヲ來セリ然レモ練リ方ノ不完全ノ爲メト并ニ糊付ノ多量ナルガ爲メ遂ニ横濱輸出商ノ嫌忌ヲ買ヒ練賣買ハ變シテ生絹賣買トナレリ是レ正ニ明治廿四年ノ事ニ屬ス爾來年ヲ閱スル茲ニ十星霜猶未タ生絹賣買ノ跡ヲ絶ツ能ハズ識者ノ常ニ患フル所ナリ

抑モ此時代ニ在リテハ工女ノ年期ハ皆五年或ハ七年ノ長日月ヲ要スルコトナリシヲ以テ織工ノ技術ハ大ニ巧妙ナルモノアリ從テ其製品ハ非常ニ精巧ノモノナリシナリ而ルニ斯業ノ隆盛ニ赴キ縣下全般ニ普及スルニ從ヒテ工女ノ斯ク長日月ノ年期ヲ勤ムルモノ漸ク其跡ヲ絶チテ僅々一年位ノ見習ノ後チ直ニ製織ニ從事スルニ至レリ是レ製品ノ需要ノ多キノ結果ヨリ生ゼシ現象ニ外ナラズト雖モ爲メニ其技術ハ頗ル拙劣トナリ製品ノ品位亦自ラ先キノ如キ精巧ナルヲ得ズ加之今日ノ如ク生絹取引ガ全取引ノ六七分ヲ占ムルニ於テハ其精粗一見瞭然タラザルヲ以テ極メテ不安心ノ念ニ堪ヘサルナリ

以上ハ阿武隈川沿岸ノ狀況ヲ陳述シタルヲ以テ進ンテ東海岸地方即チ小高地方ノ沿革概況ヲ叙セントス  
 茲ニ小高地方ト稱スルハ則磐城國一圓ヲ概指スルモノニシテ同縣ナリト雖モ一帯ノ峻嶺ハ以テ岩代國トノ  
 境ヲナシ全ク別乾坤ノ勢ヲナセリ一般ニ山岳重疊狹斜ノ地產業ノ如キ古來微々トシテ振ハス殊ニ製絹ノ業ノ  
 如キ全ク其跡ナカリシト謂フモ敢テ不可ナキナリ然ルニ今ヤ新進ノ機業地トシテ重キヲ當縣下ニ成シ其額モ  
 亦極メテ大ナルヲ致セルハ蓋シ同地ノ名望家半名清造氏ノ賜ナリト謂フ可シ氏ハ王政維新廢藩置縣ノ後暫ク  
 身ヲ教職ニ置キシト雖モ夙ニ殖産ニ志アリ明治十五年ニ至リ遂ニ職ヲ辭シ専ラ勸業ニ從事ス而シテ或ハ農談  
 會ヲ開キ或ハ蠶業談話會ヲ設ケ地方人士ヲシテ意ヲ蠶業ニ傾ケシム又荐リニ蠶業之本邦主要且有利ノ産業ニ  
 シテ須更モ忽諸ニ付スヘカラサルモノナルヲ説キ大ニ之レカ獎勵ヲ爲セリ幸ニシテ隣郷伊達地方ハ古來斯業  
 隆盛ノ域ニ進ミ其聲譽海内ニ噴々タリ故ヲ以テ傳習生ヲ同地ニ派遣シ就テ之ヲ傳習セシメタリ傳習生トシテ  
 行キシモノ半谷一意山尾重吉他二名併セテ四名トス就ク所ノ師ハ大増村大橋九右工門氏ナリ翌年業ヲ終ヘテ  
 歸リ之ヲ試ムルニ成績頗ル良好ニシテ美麗ナル品ヲ得タリ然レトモ如何ニ品質上等ナリトテ多量ニ且  
 經濟的ニ之ヲ製出スルヲ得ルニ非サレハ折角ノ企圖モ亦産業ノ産業タル所以ヲ失フニ至ルヘキヲ以テ専ラ勞  
 力其他生産費ヲ減少センコトニ留意シ着々歩武ヲ進歩シタリ時正ニ明治十七年ナリ

爾來蠶業家製絲家トナルモノ續々輩出シ年々其勢力ヲ加ヘ明治十八年ニ至リテ遂ニ蠶種絲品評會ヲ開會ス  
 ルノ機運ニ向ヘリ時恰モ伊達地方ニ於テ羽二重ノ輸出セラレ頗ル有利ナリトノコトヲ耳ニス此ニ至リテ臘ヲ  
 得テ蜀ヲ望ムノ情勃々トシテ起リ禁ズル能ハズ遂ニ有志者相計リテ私ニ製絲機業ヲ企圖セリ而シテ機織ノ事

業タルヤ其性質農家ノ副業トシテ極メテ好適ノモノニシテ最モ時宜ニ適ス是レニ於テカ參考品トシテ羽二重  
 ヲ取寄セ以テ洽ク衆人ノ觀覽ニ供シタリ人心之ニ依テ刺激シ機業心爲メニ促進スルヲ得タリ抑モ是レ當地ニ  
 機業アルニ至リタル始メニシテ地方人士亦大ニ熱心ニ意ヲ注グニ至レリ明治十九年ニ至リ其十月偶々山尾某  
 ナルモノ半谷氏ノ門ヲ叩ク某ハ川俣ノ機業家齋藤常治氏ニ寄宿セシ人ニシテ織物師ナリ蓋シ半谷氏ノ熱誠ナ  
 ルヲ聞キ是ヲ訪ヘルナリ茲ニ於テ好機逸スベカラズトシ右山尾某ヲ師トシテ製織ニ從事ス而シテ漸々遂フテ  
 其改良ヲ計ラントセリ品初メテ成リ之ヲ安田利右衛門氏ニ賣リシニ一本三百目尺五ノモノ二十五圓ニ價シ金  
 六圓ノ純益ヲ得タリ而シテ當時百目ノ生糸代價ハ實ニ六圓ナリシト謂フ從テ一個月ニ一本織上グルトスル  
 モ猶一日二十錢ノ利得ニ平均ス而モ一個月ニ少クモ二三本ハ之ヲ織リ得ルヲ以テ其利ハ大ナリ時ノ巨長モ亦  
 英才アリ熱心ニ其發達ニ盡力セリト謂フ

明治廿年ニ至リテ士族授産金下附ノ内命アリケレバ士族相會シテ協議會ヲ開キ資本金五千圓ノ下附ヲ申請  
 シ多數決ヲ以テ小高織物會社ヲ創設セリ是ヲ以テ本縣ニ於ケル機業會社ノ嚆矢トス是ニ於テカ實地取調委員  
 トシテ山尾半谷ノ兩氏ヲ舉グ全年八月群馬栃木埼玉ノ諸地方ヲ歴巡シテ親シク機業ノ狀況ヲ視察セシメ明治  
 二十年十一月二日開業ヲナス其成績頗ル優良ナリ而モ好事魔多シ利益金分配ニ當リ其割賦金割合ニ關シテ些  
 細ノ事ヨリ普通株主ト責任株主トノ間ニ軋轢ヲ來シ郡長村長等ノ和解調停モ其效ヲ奏セズ遂ニ解散ノ不幸ヲ  
 見ルニ至レリ豈惜マザルペンヤ然レモ有志ノ士斯業ヲ放任スルニ忍ビズ各自自宅ニ於テ此ニ從事シ以テ今日  
 ニ至レリ而モ甲傳ヘ乙習ヒ今ヤ近隣地方ハ勿論南方平町ニ連ル一帯ノ地方到ル處トシテ機杼ノ聲ヲ聞カザル



ハナシ豊亦盛ナラズトセンヤ

終リニ臨ンテ若松地方モ亦近年ニ至リテ發達シ多少工場組織ノ下ニ經營セラル、モ其製スル所ノ品種區々トシテ一定セズ從テ上述ノ二地方ニ比スベクモアラズ其產額亦極メテ少シ故ニ別ニ之ヲ記セズ

要之本縣片羽二重ノ製織ノ始期タルヤ福井縣ニ比スレバ早キヲ實ニ二年ナリ然ルニ其產額ニ至リテハ年々三百萬圓内外ニシテ後者ニ比スレバ其四分ガ一ニ過キズ其始期ノ早クシテ而モ絹物ニ就テハ古キ歴史ヲ有スル斯クノ如クニシテ何スレソ其發達ノ遅々タルヤコレ畢竟スルニ彼ノ本業トシテ之ニ熱心從事スルニ反シ此ハ單ニ副業トシテナセルノ致ス處ナリ殊ニ縣ノ斯業ヲ視ルニ極メテ冷淡ニシテ單ニ一地方ノ産業ト見做シ其保護獎勵ヲナサ、リシノ致ス所ナリ故ヲ以テ明治三十年頃ニ至ル迄ハ盛ナリトハ謂ヘ未ダ頗ル微々タルヲ免カレザリシモ此年ヲ以テ中興トシ各郡市町共ニ機織ノ業ニ意ヲ傾注シ之カ發達改良ニ向テ補助獎勵ノ方策ヲ講究施設セサルモノナキニ至リシヲ以テ較近ニ及ンテ聊カ產額増加ヲ確進セリ

今本縣下數年來ノ來絹物ニ關スル統計ヲ掲ゲテ其一般ヲ示セバ左ノ如シ

年度	機戸	機臺數	職工數		附屬工	製造額	價格
			男	女			
二三	未詳				×	七、五六〇 五、四八、六五〇	八九九、五〇八
二四	未詳				×	五、一七〇 四七九、八九九	六五二、〇三三
二五	未詳				×	二、〇〇〇 四三三、四三八	七〇二、九八二

二六	未詳				×	六四、三〇〇	一、三三三、三六八
二七	一五、六三三	一七、六八七	三三三	一八、〇三三	一八、四四	三七四、九七八	九七二、三五〇
二八	一四、七六二	一六、九六一	三二六	二二、六九	三二、四二五	四九八、八四四	二九四、四一五
二九	一五、四三三	一七、九〇九	詳全	上全	上	三八二、一七四	九八七、五〇九
三〇	一六、〇三三	一九、六〇未	詳全	上全	上	六〇七、九〇一	一、九九二、二四三
三一	一七、一三四	二〇、九五七	一、八八八	二七、九四八	二九、六三六	七〇八、四三〇	三、三六八、七五五
三二	四、一六三	七、八二五	一七九	七、八〇三	七、九六一	一、八五三	二、六九一、五〇〇
三三	四、〇〇八	八、二〇五	二四三	八、二七七	八、二八〇	二、三七五	三、〇八八、四三〇

表中△ハ帶數ニシテ×符ハハンカチーフノ枚數ヲ示ス

明治三十二年ノ數類ノ機戸機臺ニ於テ減少セルハ蓋シ自家用ノ分ヲ統計表中ヨリ控除シタルニ依ルモノナリ

## 第二章 組織

### 第一節 機業者

當地絹織物ノ業タル其沿革ハ前章既ニ述ベシカ如ク極メテ古シト雖トモ其農家ノ副業タル性質ニ至リテハ古今其趣ヲ一ニシテ變スル所ナシ從テ工場的大規模ノ下ニ經營セラル、モノ絶テナク皆一二臺ヨリ多クテ廿四五臺ヲ有スルニ過キズ而モンノ二十臺以上ヲ有スルモノ、如キ極メテ稀少ナリ况ンヤ其會社の組織ノモノニ於テヤ僅ニ次ノ二合資會社アルニ過キス以テ如何ニ其副業的家的ニ營マル、ヤヲ推知スルニ足レリ

名	稱	所在地	創業年月	資本總額	拂込濟
瀨上機業合資會社		信濃郡 瀬上村	明治卅一年	一、七二五	一、七二五
製絹合資會社		耶麻郡 喜多方町	明治廿八年四月	七、二〇〇	七、二〇〇

其工場トシテ比較的大ナルモノヲ擧クレバ左ノ如シ

持主	所在地	創業年月	工數	女數
半谷一意	相馬郡小高町	明治廿一年十月	十四歲以上	十四歲未満
滿壽蠶館機業部	若松市榮町	同廿七年十月	男 二七五	女 五
菱丙織物工場	同北小路町	同廿七年十月	一〇	〇

葛岡第一工場	同名子屋町	同廿九年六月	一	二
葛岡第二工場	同青井町	同廿九年六月	一	二
羽二重工場	同片柳町	同卅一年一月	一	八
芳賀工場	同材木町	同卅一年一月	一	〇
石堂絹織本工場	同榮町	同卅一年一月	一	四
富士絹織工場	同六日町	同三十年四月	一	〇
石堂系織分工場	同大日町	同卅一年十一月	二	五
山口出張工場	同行人町	同卅一年十一月	一	〇
二瓶工場	同榮町	同卅二年五月	一	〇

是ニ依リテ之ヲ觀レハ工女數ノ如キ半谷工場并ニ石堂系織分工場ノ廿五人ヲ有スルカ如キ其大ナルモノニシテ他ハ皆十人内外ヲ使用スルニ過キス其工場ト稱スルモ眞ニ有名無實ナルヲ知ルベシ而モ皆是レ若松一市ニ集ル所ナリ殊ニ其本場ト稱セラル、最モ隆盛ナル川俣地方ニ於テ猶且ツ機業戸數三千二百三戸ニシテ機臺數七千〇四十二臺即一戸平均二臺強ヲ有スル割合ニ過キス之ヲ全縣ニ通スレバ一戸平均僅ニ一、八臺ニシテ二臺ヲ有セザル割合ナリ而モ年々ノ産額實ニ三百萬圓ニ垂ントス涓滴集聚シテ大海ヲナストハ眞ニ夫レ是ヲ謂フ乎

要之當縣ノ機業ハ別ニ機業家ト稱スル者ニ依リテ營マル、モノニ非ラズシテ農家老嫗子女ノ手ニ倚テナサル、モノナリ故ヲ以テ機械織機臺ノ如キ更ニ皆無ニシテ皆手織機臺ナリトス而シテ此等農家ハ皆中流以下ノモノナリ從テ多クハ之カ原料タル糸ノ如キモ生糸商ヨリ前借スルモノヨリナル即チ羽二重織上ニハ四五日ヲ要シ之ヲ賣却スルノ市亦四五日目ニ開場セラル、ヲ以テ此市ニ持出シテ賣上ノ後ハ其代金中ヨリ糸代ヲ支拂殘金ニテ日用品ヲ購求シ又次ノ織上ニ要スル糸ノ前借ヲナス實ニ至便ナリ今各郡市ニ於ケル機臺數并ニ機戶數ヲ舉ケ其割合ヲ示サン

明治三十二年度調

郡市名	機臺數	一戶平均機數
信 夫	二〇八	四〇三
伊 達	二二九〇	四〇〇四
安 達	四六六	九八二
安 積	二	一六
岩 瀨	八	三五
南 津	七七八	七八二
北 津	二	八
耶 麻	八八	二〇二
沼 沼	三	二四
大 河	六	二八

郡市名	機臺數	一戶平均機數
東 川	九	四〇
西 川	四六	二一九
石 川	六	三六
田 村	七五	一九九
石 城	二八	一三九
双 葉	二七	八五
相 馬	九七	四〇一
若 松	二四	二二一
合 計	四、一六三	七、八一五

是ニ依ツテ之ヲ見レバ本縣ニ於テハ他地方ニ於ケルカ如ク機業家ニ種々複雑ナル階級ノアルナク又種類ナシ唯タ川俣地方ニ至レバ一二機業者ノ機臺ヲ貸付ケテ以テ織ラシムル所ナキニアラズト雖モ種々テ微々タルモノニシテ事々シク述ブルノ要ヲ見ス

斯業ノ發達此ノ如クニシテ而モ全ク副業的ナルハ抑モ亦理由ナクンバアラズ是ヲ川俣地方ニ視ルニ斯業ノ性質タル常ニ海外諸國ノ相場ニ左右セラレ一浮一沉價格一定セズ而モ當事者其事情ニ迂ク之ヲ處置スル能ハスシテ失敗スルモノ比々即世俗ニ所謂堅カラサル事業ナリ故ヲ以テ斯業ニ從事スルモノ頗ル不安心タルヲ免レズ而モ其利ヤ未ダ必スシモ大ナラス故ヲ以テ少ク資産アルモノハ危險ナル斯業ヲ避ケ去テ内地向需要ノ一定セル商業ニ就ク之レ其ノ一原因ナリ然リ而シテ專門ニ從事スルヤ其利少ニシテ不安ナルヲ免レズト雖モ

農家ノ子女ニ至ツテハ別ニ巨利ヲ獲ントスルノ望ナク唯系代ト並ニ幾分ノ手間賃ヲ獲レハ満足スルヲ以テ其相場低落シテ如何ナル悲況ニ陥ルモ他ノ専門的ニ従事スルモノニ比シ痛痒ヲ感スルノ程度ハ極メテ輕微ナリ是レ其ノ二因ナリ其規模ノ點ヨリ謂ヘハ福井兩毛地方ニ比シ遠ク及ハスト雖モ一旦海外ノ相場變動ヲ來ストキハ福井地方ノ機業者ニ比シ其損害ヲ蒙ル程度極メテ薄ク格別ノ狼狽ヲ來スナク頗ル彈力ニ富ムガ如シ蓋シ戸々別々ニ營ムヲ以テ毎戸平均ノ損害負擔額ハ案外ニ僅少ナルヲ以テナリ

### 第二節 買繼者

問屋即當地ニ於テ一般ニ買繼商ト稱スルモノハ横濱商館其他輸出業者ヨリ注文ヲ待テ之カ買入ヲナスヲ業トスルモノニシテ即生産者ト外國輸出業者トノ中間ニ介在シ商品ノ媒介ヲナスモノヲ謂フ而シテ多クハ川俣町ニ在住ス然レトモ横濱外國商館ノ出張セルモノ亦ナキニアラス今其主ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

- 川 俣 大内 商店 坪内 商店 大井 商店 丸高 商店
- 高橋 商店 熊坂 商店 山口 傳吉 コーンス商會
- 福 島 油井 商店
- 保 原 熊澤 商店
- 飯 野 齋藤 梅吉

其他若松市三春町小高町等各主要地ニ於テハ其買繼ヲナスモノナキニアラスト雖多クハ右各商店出張員ノ

手ニヨリテ買入ラル、カ如シ

買入ノ順序方法 サテ此等商店ノ多クハ先ヲ見越シテ買集ムルモノ極メテ少ク殆ント皆横濱輸出業者ノ注文ヲ待チ然ル後レカ注文品ノ買入レニ着手スルカ如シ即チ注文ヲ待テ始メテ其需用品ノ種類ヲ知リ是ニ依テ以テ其適品ヲ買集ムルナリ然レトモ時ニ或ハ海外需要先ノ嗜好スル所ノ品質丈尺ヲ豫メ廣告シテ生産者ニ注意シ適品ヲ織ラシムルコトアリ然リ而シテ買繼商ノ製品ヲ買集ムルヤ他諸地方ノ如ク自ラ機業家ヲ訪ヒテ之ヲ求メ或ハ機業者ヨリ各商店ニ就テ賣込ムモノニアラスシテ皆一定ノ期日一定ノ場所ニ開場セラル、市ニ於テ取引セラル、モノナリトス蓋シ其機業ノ性質副業的家内のナルノ故ヲ以テ一々之レニ就カンニハ幾萬千本ノ取引ヲナス日モ之レ管ナラザルノミナラス其感スル所ノ不便亦大ナルモノアルヲ以テ今聊カ市ノ如何ナルモノナルヤヲ説明セン

市トハ豫メ一定セル時日ニ於テ特定セル場所ニ買繼商ト機業家トノ相會シテ製品ノ賣買授受ヲナス行爲ノ總体ヲ謂フモノニシテ多ク著名ナル町村ニ於テ開カル、事トナレリ其一例トシテ最も多額ノ取引ノ行ハル、川俣市ノ實況ヲ記載シ以テ其賣買取引ノ模様ヲ明ニセン

同市ハ二七ニ當ル日ヲ以テ其開場ノ定日トス而シテ其由來モ亦頗ル古キガ如シ即チ元錄年間既ニ屢々市場ノ争アリテ法術ヲ煩シタルコトアリシニ依ルモ之ヲ知ルヲ得メシ猶九月七日ヨリ十日ニ亘リテ春日神社ノ祭禮市アリ此日ハ其最も盛ナルモノニシテ五十年前既ニ百駄百五十駄ノ取引アリタリト謂フ今日ニアリテモ平時ニ比スレハ取引高多ク其額五千匹ニ達スト謂フ其開場ノ場所ハ豫メ町ノ中央ニ一區劃ヲナシテ定マリ而シ

テ各買繼商ハ其區劃内ニ於テ各自専用ノ店舗ヲ有ス(之亦近年ニ至リテ定マリタルモノニシテ元ト川俣町ハ町小綱木町飯坂ト稱シ小河ヲ堺トシテ藩ヲ異ニセリ故ヲ以テ往古ヨリ互ニ反目嫉視スルコト甚タシク市モ町ヲ上中下ト分チ各自ニ開場シテ不公平ナカラシメタリト謂フ即チ二ノ日ニ上町ニ開ケハ七ノ日ハ下町ニテ開キタリ)之レ川俣市ニ特有ノモノニシテ他市ハ皆農家或ハ商家ノ店先ヲ市日毎ニ相當ノ借料ヲ拂ヒテ借リ受クルモノナリ借テ市日ニ至レハ各買繼商ハ前夜ヨリ之カ準備ヲ調ヘ未明ヨリ前記ノ店先キニ各自ノ屋號商號ヲ染出セル紅白或ハ青色ノ旗幟ヲ懸シ以テ客ノ至ルヲ待受ク近村農家ノ子女亦積日ノ丹精ニナレル一本乃至數本ノ製品ヲ携ヘ來リ組合發行ノ證紙ヲ貼付ノ市場入口ニ在ル川俣絹織物同業組合検査所ニ至リ豫メ検査ヲ受ク検査終リテ検査證印ノ押捺ヲ受ケ品種一定ス是ニ於テ門内ニ入り自己欲スル商店ニ至リテ之ヲ賣却ス其市ノ開場時間僅ニ二三時間ニ過キス而モ其取引高一市ニ三千本以上ニ上ル其敏活ニシテ輕便ナル實ニ想フ可シ從テ開場中ノ混亂雜沓實ニ名狀ス可カラズ故ヲ以テ其代金受授ノ如キモ現金拂ノ如キハ殆ント之ナクシテ或ハ一時一片ノ紙片ニ代價及ヒ自己ノ商號ヲ記載セルモノヲ與ヘ置キ市結了ノ後之ト引換ニ其代金ヲ渡スアリ或ハ別ニ紙片ヲモ與ヘスシテ賣却者ヨリノ口頭ノ申出ニヨリテ代金ヲ拂渡スモアリ殊ニ今日ノ取引ニ於テハ殆ント後者其多キヲ占ムルカ如シ而モ兩者間未タ曾テ錯誤ヲ生セシコトナシトカ左ニ有名ナル市ノ名稱期日ヲ記載列舉セン

市名	場所	期日	賣買取引高
川俣市	川俣町	二七兩日	三〇〇〇

飯野市	飯野町	三八兩日	八〇〇
福嶋市	福嶋町	未詳	二五〇
小高市	小高町	四九兩日	三〇〇
原町市	原町	五十兩日	未詳
中村市	中村町	四ノ日	未詳
三春市	三春町	五ノ日	未詳
白河市	白河町	十ノ日	未詳

以上殆ント連日何所ニカ市ノ開クルヲ以テ取引上非常ニ利便ナリ而シテ各買繼商ハ右各市ニ出張シテ買ヒ集メニ從事スルモノナルヲ以テ恰モ直接生産者ヲ訪フテ買ヒ取ルト同様ナリトス問屋ノ見込買ヲナサハルハ外國ノ事情ヲ知ルニ困難ナルヲ以テノ故ナランモ其大原因ハ市ノ連日開クルヲ以テ隨時注文ニ適スル品ヲ購買スルノ却テ利益ナルノ致ス所ナラズンバアラズ買集メタル製品ハ先ツ各自ノ商店又ハ出張所ニ持來リテ品質ノ上下ニヨリ之ヲ數多ニ類別シタル後練業者ニ托シテ練上ヲナサシム練上終レバ練業者豫メ之レヲ荷造シテ各商店ニ返付ス此ニ於テ始メテ荷造ノ上横濱ニ向テ輸送サル、ナリ然レトモ亦福島町ノ油井商店ノ如ク練上ノ後一度之ヲ福島町ニ持歸ル者モ亦ナキニアラス

現今ニ至ル迄川俣以外ノ地ニ於テハ練業者ナカリシヲ以テ福島市ニテ購求スル油井商店ノ如キ買取リタル生絹ハ更ニ之ヲ交通不便ナル川俣ノ地ニ送テ練上ヲナサシメ更ニ練上ノ後之ヲ持歸リテ輸出ノ手續ヲナセ

リト幸ニ本年ニ至リテ同町ニ練業者生シタレバ爾後斯ノ如キ複雑ノ手續ヲ要セザルニ至ルベシ  
 仲買商 當地ノ仲買商ト謂フハ一定セルモノニアラズ朝ニ絹織物ノ賣買ヲナシ夕ニ生絲ノ仲買ヲナス而シ  
 テ其職トスル所ノモノ常ニ定マラズ方言セリスト連稱シ其狡猾ナルヲ罵レリ如斯キ部類ニ屬スル者方今三  
 四十名アリ其信用ヲ重セサルヤ甚ダシキモノアリト謂フ或ハ無謀ノ買進ヲナシテ故意ニ價格ヲ變動セシメ或  
 ハ私カニ各自農家ニ就テ不合格品ヲ普通價格ニテ引取り製品ヲシテ粗惡ナラシムルノ誘因ヲナシ織物取引上  
 其害ヲ與フルコト少カラズト謂フ然レドモ亦一定ノ買繼商店ノ仲買トシテ市日ニ開店シ確實ニ賣買取引ニ從  
 事スルモノナキニアラズ

其横濱ニ於テ絹織物ヲ取扱フ商店ハ殆ンド皆其賣込先ナルガ如シ其主タルモノ左ノ如シ

- 米國向ロイセンソール商會
  - サイモン商會
  - メーソン商會
  - 印度向英五番館
  - 十貳番館
- 等ニシテ内地商店ニテハ東京堀越商會横濱ノ飯田貿易店等ノ如シ

### 第三節 練業者

羽二重ノモノタル練リ上ケテ後始メテ之ヲ使用ニ供ススベキモノナレバ練上ノ精不精カ其ノ品位ニ及ス影  
 響ノ如何ニ大ナルヤヲ知ルニ足ル從テ精練ハ當事者ノ最モ慎重ヲ要スル所ナリ然レモ練ニハ夫々ノ設備ヲ  
 要スルノミナラス又枝功ヲ要シ猥リニ之ヲナスヲ得サルナリ故テ以テ其始期ノ明治十七年頃ニ於テハ練上ノ  
 後之ヲ桐生地方ニ輸出シ同所ニ於テ練上ヲナシ横濱商人ノ手ヲ經テ之ヲ海外ニ輸出セリ其迂ニシテ不利ナル  
 謂テ待タズ故テ以テ其後一時此地方ニ於テ練上ヲアレモ其不熟ノ結果ニヤ明治廿年ニ至リテ横濱商人ヨ

リ練上品ノ拒絕ニ會ヒ遂ニ練賣買ハ變シテ生絹賣買トナリ以テ近年ニ及ベリ而シテ其整練セザルノ不利ナル  
 ヲ覺リシト雖モ已ニ業ニ遅ク今猶生絹賣買セラル、モノ極テ多シ是レ本縣ノ整練事業發達セザリシ所以ナリ  
 然リ而シテ年々産額ノ増加ヲ來シ縣下有數ノ物産トシテ重要ノ地位ヲ占ムルニ至リシ今日其産額ノ増加ハ品  
 質ノ良否ト反比例ノ傾向ヲ有スルヲ以テ當事者之ガ防禦ニ力ヲ盡サントスルモ悲イカナ生絹賣買多クシテ其  
 品質ノ鑑別矯正ヤ蓋シ至難ナリ故テ以テ近年ニ至リ當事者大ニ之ガ勃興ヲ獎勵セリ且ツヤ悉皆練賣買トナラ  
 ンカ練上ヨリ生ズル利益亦此地ニ落チ空シク他人ニ委セズシテ可ナリ是ヲ以テ川俣ニ川俣整練株式會社(明  
 治三十二年七月創立)谷崎整練工場アリ福島町ニ福島倉庫會社ノ整練工場アルニ至レリ此他白河町并ニ若松  
 市等ニ設立セラル、ノ計劃アリト謂フ

而シテ福島ノ整練工場ヤ本年成就シタルモノニシテ未タ其業務ヲ開始スルニ至ラズ谷崎整練工場亦時々休  
 業ヲナス其常ニ業務ヲ繼續スルモノ川俣整練株式會社ノ一アルノミナリ其微々トシテ振ハザル何ソ斯ノ如ク  
 ナルヤ吾人ハ一日モ早ク斯業ノ機業ノ發達ト相呼應シテ隆盛ノ域ニ進ミ以テ製品品位ノ正不正ヲ精製ニ檢シ  
 粗製濫造ヲ絶チ改良進步ノ實ヲ擧ケンコトヲ望ムヤ切ナリ是ニ於テカ縣下ノ名聲揚ルベク本邦輸出品ノ聲譽  
 ヲ海外ニ博スルヲ得ベシ

精練ノ方法 先ツ買繼商ノ川俣飯野其他諸市ニテ買集メタル生羽二重ハ一應品別シタル後之ヲ精練業者  
 ニ托シテ整練セシム

今川俣整練株式會社ニ於テ行フ方法ヲ示サン一年ノ作業日數ハ大約三百二十日ニシテ毎日營業時間午前七

時ニ始リ午後七時ニ終ル大凡十二時間ナリ蒸氣機關二個ヲ備フ公稱馬力十五馬力ナリ職工ハ男二十四人乃至三十四人ヲ使用ス刑ニ圓筒形ノ大桶四五ヲ具フ桶底ニハ鉄管アリテ蒸氣ヲ通スルヲ得ルナリサテ買繼商ヨリ送り來ル羽二重ハ先ツ之ヲ水ニ浸シテ落糊ヲナス糊落終レバ一疋ツ、之ヲ疊ミテ前記ノ桶中ニ之ヲ積ミ入レ蒸氣ヲ通シ石鹼曹達ノ二品ヲ投入シテ練ル約三四時間ナリ後チ之ヲ出シテ白湯中ニ没シ數度練返シ更ニ之ヲ清水ニテ洗滌スルモノナリ是ヲ乾燥スルニハ快晴日ニ於テハ天日ニ曝シ雨天ナレバ室内ニ懸垂シテ炭火ヲ用ユ一回練上ノ量ハ大凡五十疋位ナリ又石鹼曹達ノ二品配劑ノ割合タル一二當事者ノ手加減ニ依テ決セラレ別ニ一定セザルガ如キモ二割ノ石鹼ト少量ノ曹達ヲ用ユルヲ以テ普通トス然リ而シテ精練速成又ハ羽二重ノ減量ヲ防グガタメ種々ノ藥呂ヲ用ユルハ組合定疑ニ於テ特ニ禁ズル所ニシテ川俣同業組合定疑百三條ニ規定シテ曰ク練業者ハ其精練速成ヲ圖ルタメ劇劑ヲ濫用シ或ハ羽二重ノ減量ヲ防カンタメ粗練又ハ糊其他量ヲ増スベキ藥劑ヲ用フルコトヲ得ズト燃料ハ石灰ヲ用ユルコトアレトモ運搬不便ナルヲ以テ多クハ薪ヲ使フ千五百匹ヲ練ルニ略二尺長サノ薪三百本ヲ要スト謂フ

練實川俣整練株式會社ニテ定ムルモノ左ノ如ク谷埜工場亦同ジ

- 羽二重
- 一尺三寸 一疋 貳拾貳錢
- 一尺五寸 同 貳拾四錢
- 一尺八寸 同 貳拾六錢

二尺四寸

同

參拾貳錢

三尺二寸

同

四拾錢

平絹

一尺

拾錢

多忙ノ時季 其多忙ナル時季ハ七月ヨリ正月頃ニ至ル六七个月ニシテ時々夜ヲ徹シテ業ニ從ヒ一日二千五百疋ヲ練リ上グルコトアリト謂フ是レ買繼商ノ托シタルモノハ必ズ次ノ市迄ニ練上ゲテ終ラサルベカラサルヲ以テナリ其毎日ノ平均練上高大凡六百疋ナリト謂フ而シテ其閑ナル時期ハ唯五月頃ニ止マル是レ養蠶ノ時季ニ際シ農家多忙ナルヲ以テナリ

毎川俣市ニテ取引セラル、モノ三千疋以上ニシテ其内二千疋ハ川俣整練株式會社ニ依テ練上ケラル其半季間ニ於ケル練上高ハ本年上半年ノ如キ四万八千疋ニ達セシト謂フ

練上品ノ検査 練業者ニ依テ練上タル品ハ必ズ同業組合検査所ノ検査ヲ受ケザルベカラズ即チ同業組合定疑第百二條ニ於テ練業者ハ授托品ト自己ノ品トヲ問ハス其練上品ノ検査ヲ了スルニアラザレバ依願主ニ返付販賣スルヲ得スト規定セリ故テ以テ例令自己ノ使用ニ供スル品ト雖モ必ズ検査ヲ受ケザルベカラザルナリ練業者練上品ノ検査ヲ受クルニハ豫メ其品ノ丈尺及ビ幅ヲ組合ヨリ拂下ケアル證紙ニ明記シ業名印ヲ以テ消印セザルベカラザルナリ猶ホ練上ノ際ニ疵胴切及汚染等ノ個所アルトキハ其織物端ニ左ノ證印ヲ捺捺シ其個所ヲ記入シ其個所ニ對スル織耳ニハ目票トシテかな糸ヲ綴付ケザルベカラズ

疵	ケ所	胴切	ケ所	汚染	ケ所
---	----	----	----	----	----

六分

組合ニテ検査ヲ了レバ其證トシテ次ノ證印ヲ證紙ニ押捺ス

川俣絹織物同業組合検査證

然レトモ實際ハ其検査ヲナサズシテ唯證紙ニ検査證印ヲ押捺セルモノ、拂渡ヲ受ケ隨時之ヲ貼付セリ然レトモ横濱ニ至ルヤ取り去ラレ少シモ其效ナク唯組合ノ經費支辨スル爲メニ其財源ヲ作ル手段ニ過キザルガ如シ而シテ練業者ニ於テ良品ナルヲ證スル爲メニ貼付スル次ノ商標ハ却テ信用アリ川俣ノ鹿印トシテ大ニ斯界ニ賞譽セラル

### 第三章 機關

#### 第一節 組合

沿革當縣絹織物業ニ關スル組合凡テ三アリ即チ左ノ如シ

- 福島絹織物同業組合 信夫郡福島町
- 川俣絹織物同業組合 伊達郡川俣町
- 田村郡輸出絹織物同業 田村郡三春町

此内最モ古キハ伊達安達兩郡ヨリ成レル川俣組合（川俣絹織物同業組合ヲ指ス以下他二組合トモ便利ノ爲メ福島組合或ハ田村組合ト略稱ス）ニシテ明治二十九年二月公布福島縣令第十六號絹織物同業組合取締規則ニ依リテ設置セラレタルモノナリ其絹織物ノ主要産地タルノ故ヲ以テナリ次ニ起リシハ田村組合ニシテ同組合ハ明治三十年法律第四十七號輸出重要品同業組合法ニ依リテ田村郡一圓ノ同業者發起シ認可ヲ得タルモノナリ昨明治三十三年三月法律第三十五號トシテ重要物産同業組合法ノ發布セラル、ヤ之ニ準據シテ兩組合トモ其組織ヲ變更シテ以テ今日ニ至レリ終ニ福島組合ハ其設立ノ最モ新シキモノニシテ其起因ハ實ニ明治三十一年九月廿日福島町ニ開カレタル第四回陸羽實業大會ニアリ當時同會ニ出席セシ本縣ノ機業家ニシテ縣下ヲ通セル一大組合ヲ組織シ以テ本縣機業改良ノ實ヲ擧ケントノ意向ヲ抱ケルモノ多カリシヲ以テ別ニ機業家ノ懇話會ヲ開會シタル席上群馬縣桐生町ノ機業者森山芳平栃木縣足利町ノ機業者川島長十郎兩氏ノ講話ヲ聞キ大ニ裨益スル所アリタレバ更ニ進ンテ福島縣絹織物組合ヲ組織センガ爲メニ協議會ヲ開會シタリ時正ニ明治三十一年十月二十日會スル者同業者六十名ニシテ縣ノ當局者亦臨席シ會長幹事決議實行委員等ヲ擧グ同縣下統一ノ目的ヲ以テ各其部署ヲ定メ着々其事ニ當リシカ川俣組合田村組合外ノ者ヤ既ニ其設置ヲ了リ其礎ヲ作りシ處ナルヲ以テ今俄ニ合同スルノ至難ナルモノアリ止ヲ得ズシテ暫ク時機ヲ待ツトセリ其後其到底成



立ノ困難ナルヲ悟リ明治卅四年法律第四十七號ニ依リ信夫郡同業者ニ依テ同郡一圓ノ組合ヲ發起シ明治卅二年四月其認可ヲ得タリ然ルニ幾何ナラズシテ右發起人一部并ニ他郡市ノ同業者トノ間ニ協議アリ其結果川俣田村兩組合外ノ郡市ヲ總括シテ一組合ヲ組織スルトナリ更ニ發起認可ヲ申請シ同年十月五日許可ヲ得タリ其後發起人ノ盡瘁ト當局者ノ誘接扶助トニ依リ致々其歩武ヲ進メ明治三十三年五月十二日ニ至リ本組合認可書ヲ農商務大臣ヨリ受領シ以テ今日アルニ至リタリ縣亦發起人ノ出願ニ對シ金三百圓ヲ組合創業費トシテ補助シタリ以上ノ如ク當縣組合ハ三個ニ分レ何レモ其設立後日尙ホ淺キヲ以テ其實蹟未タ容易ニ舉ガラザルガ如キハ余輩ノ大ニ斯業ノ進歩改良上大ニ惜ム所ナリ

組織 組合ヲ組織スル所ノモノハ組織物業ニ關係アル凡テノ營業者ニシテ即チ製造業者販賣業者紐業者練業者箴業者等はナリ然レモ福島組合及田村組合ニ於テハ練業者ヲ列舉セス是レ同地方ニ於テハ兩營業部類ニ屬スル者皆無ナルノ故ヲ以テナリ

各組合トモ便宜上之ヲ類部ニ分チ事務ヲ分掌セリ  
即チ福島組合ニ於テ左ノ六部ニ分チ

第一部 信夫郡

第二部 安積郡岩瀬郡

第三部 北會津郡河沼郡大沼郡若松市南會津郡

第四部 東白河郡西白河郡石川郡

The Kawamata Silk Refining Co.  
GUARANTEED OF PURE REFINED SILK.  
IWASHIRO, JAPAN.



川俣絹織物同業  
組合練檢査之証

立ノ困難ナルヲ悟テ明治卅四年法律第四十七號ニ依リ信夫郡同業者ニ依テ同郡一團ノ組合ヲ發起シ明治卅二年四月其認可ヲ得タリ然ルニ幾何ナラズシテ右發起人一部并ニ他郡市ノ同業者トノ間ニ協議アリ其結果川俣田村兩組合外ノ郡市ヲ總括シテ一組合ヲ組織スルコトナリ更ニ發起認可ヲ申請シ同年十月五日許可ヲ得タリ其後發起人ノ盡瘁ト當局者ノ誘掖扶助トニ依リ孜々其歩武ヲ進メ明治三十三年五月十二日ニ至リ本組合認可書ヲ農商務大臣ヨリ受領シ以テ今日アルニ至リタリ縣亦發起人ノ出願ニ對シ金三百圓ヲ組合創業費トシテ補助シタリ以上ノ如ク當縣組合ハ三個ニ分レ何レモ其設立後日尙々淺キヲ以テ其實績未タ容易ニ擧ガラザルガ如キハ余輩ノ大ニ斯業ノ進歩改良上大ニ惜ム所ナリ

組織 組合ヲ組織スル所ノモノハ組織物業ニ關係アル凡テノ營業者ニシテ即チ製造業者販賣業者紐業者練業者箴業者等是ナリ然レハ福島組合及田村組合ニ於テハ練業者ヲ列擧セス是レ同地方ニ於テハ兩營業部類ニ屬スル者皆無ナルノ故ヲ以テナリ

各組合トモ便宜上之ヲ類部ニ分チ事務ヲ分掌セリ  
即チ福島組合ニ於テ左ノ六部ニ分チ

- 第一部 信夫郡
- 第二部 雙柳郡岩瀬郡
- 第三部 北會津郡河沼郡大沼郡若松市南會津郡
- 第四部 東白河郡西白河郡石川郡

The Kawamata Silk Refining Co.  
GUARANTEED OF PURE REFINED SILK.  
IWASHIRO, JAPAN.



川俣絹織物同業  
組合練檢査之証

第五部 双葉郡相馬郡石城郡

第六部 耶麻郡

川俣組合ニテハ左ノ十部ニ分テ

第一部 伊達郡桑折村湯野村藤田村五十澤村茂庭村長岡村森江野村

半田村陸合村小坂村伊達崎村大木戸村大枝村

第二部 同郡保原町梁川町太田村白根村富野村

山舟主村伏黒村上保原村柱澤村富成村堰 本村栗野村

第三部 同郡 掛田町石戸村靈山村小園村

第四部 伊達郡小手川村小手村小島村

第五部 同 川俣町飯坂村小綱木村大綱木村

第六部 同 富田村瀬田村

第七部 同 大久保村飯野村青木村立子山村

第八部 安達郡針道村木橋村太田村戸澤村山木屋村

第九部 同小濱村大平村石井村和木澤村白岩村新田村

第十部 同 二本松町油井村上川崎村下川崎村

濫川村蓮澤村瀬下村大山村

杉田村本宮町玉井村青田村  
荒井村岩根村高川村仁井田村

田村組合ニテハ左ノ三部ニ分ツ

- 第一部 三春町
- 第二部 瀬川村
- 第三部 杉村

役員 以上ノ如ク各組合トモ部ニ分チ其執ル所ノ業務ヲ區劃シテ執務ニ便セリ從テ是ガ整理行動ノ任ニ當役員ヲ要ス以下少シク役員ニ就テ述アル所アラン

各組合トモ其組合ノ代表者タリ復タ業務ノ總括者タル組長一人ヲ置ケリ又組長ノ補佐トシテ副組長一人ヲ設ク副組長ハ組長事故アルニ際シテ之ガ代理ヲナス權限ヲ有ス其任期何レモ二個年ニシテ組合員中ヨリ選出ス

又組長ノ諮問ニ應シ或ハ業務執行ノ狀況ヲ監督スルガ爲メニ評議員七名アリ組合會ニ於テ組合員中ヨリ選舉ス任期ハ二年ナリ

各部ニハ夫々部長一名アリ部内諸般ノ事務ヲ整理シ事務ヲ監督ス任期ハ二年ニシテ部内組合員中ヨリ選出シ組長之レヲ任命ス

検査員ハ嚴正迅速ニ物品ノ検査ヲ行フヲ以テ職トシ其検査事務ヲ監督スルガ爲メニ別ニ検査監督ヲ置ケリ

又其部内ヲ巡廻シ營業上ノ實況ヲ觀察シ改良ノ方法ヲ教導シ及弊害ヲ矯正セシムル目的ヲ以テ事務監督ヲ置ケリ又組長ノ指揮ノ下ニ庶務ニ從事スル書記アリ

福島組合ニ於テハ部ヲ分チ更ニ數區トシ之ニ什長ヲ置ケリ此他若干ノ證紙配布人アリテ組合發行ノ證紙ヲ組合員ニ配布ス

以上列舉シタル役員中組長副組長評議員ノ外ハ皆組長ノ任命スルモノナリ

役員トナルベキモノ、資格 川俣組合定款ニ於テハ特ニ役員トナルニ要スベキ資格ヲ明記セリ即

機業者 機臺二臺以上ヲ有スルモノ

販賣業者 一個年賣買金高 五千圓以上ノ者

紐業者 二釜以上所有者

但シ練業者箆業者及組合會ニ於テ適任ト認メタルモノハ此ノ限ニアラズ然レドモ福島田村ノ兩組合定款ニ於テハ別ニ規定スル所ナシ

猶川俣組合ニ於テハ當然役員トナルコトヲ得ザルモノトシテ左ノ九項ヲ列舉セリ

第一項 地區内ニ於テ本組合組織ノ營業ニ從事シ一ケ年ヲ經ザルモノ

第二項 丁年未滿ノモノ

第三項 瘋癲者白痴者

第四項 復權セラル破産者及家資分散者

第五項 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業農工業ヲ害スル罪財産ニ對スル罪風俗ヲ害スル罪等ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免後二個年ヲ經ザル者

第六項 公權ヲ剝奪セラレ又ハ停止中ノ者

第七項 同業組合法ニ違反シ其處分ヲ受ケ又ハ本組合ニ於テ違約處分ヲ受ケ滿一ケ年ヲ經ザル者

會議ニ定時組合會臨時組合會評議員會及常設委員會ノ四種アリ定時組合會及臨時組合會ニ於テハ

正副組長ハ互選シ評議員會及常設委員會ニ於テ組長副組長之ニ任ス此他福島組合ハ猶ホ部會ナルモノアリ

定時組合會ハ毎年一月、五月ノ兩回又ハ一月ノ一回ニ開キ其議定スベキ事項ハ左ノ如シ

一 經費豫算ヲ定メ決算ヲ認定スル件

二 賦課額及徵收方法ヲ定ムル件

三 其他組合ニ必要ナル件

臨時組合會ハ組長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ組合會議員三分之一以上同意ヲ以テ會議ノ目的ヲ示シ請求スルトキ之ヲ開クモノニシテ其議定事項ノ大体ハ左ノ如シ

一定款變更ノ件

二 正副組長評議員常設委員會計主任選舉ノ件

三 其他組合ニ關スル緊急ノ件

常設委員會ヲ開會スルハ次ノ場合トス

一 組合經費大科目流用及豫備費支出ニ係ル件

二 違約者處分ニ關スル件

三 検査員長及検査員推薦ノ件

右諸會議ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ議決シ各組合員ノ異議ノ申立ヲ許サルナリ又議員自己ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ決議數ニ加ハルコト能ハザラシム

組合會議員ハ或ハ總代人會ニ於テ一定ノ割合ヲ以テ組合員中ヨリ選舉セラル、モノト或ハ各部ニ於テ其部

内組合員中ヨリ一定ノ割合ヲ定メテ選舉セラル、モノトアリ而シテ任期ハ四年又ハ二年ナリ前者ハ福島組合

ニ於ケル規定ニシテ後者ハ川俣組ニ於ケルモノナリ其割合ヲ左ニ示サシ

福島組合

第一部	機業	一人	第二部	機業	二人	第三部	機業	一人
第四部	機業	一人	第五部	機業	三人	第六部	機業	二人
第七部	機業	二人	第八部	機業	二人	第九部	機業	一人
第十部	機業	一人						

前項ノ外各部ヲ通マテ左ノ割合ニヨリ選舉ス

總業三人販賣業十五人練業一人箴業一人

川俣組合

第一	第四	第二	第一	第三	第二
部	部	部	部	部	部
三名	五名	六名	五名	四名	三名
第	第	第	第	第	第
部	部	部	部	部	部
二名	二名	二名	二名	二名	二名

目的及業務

同業組合本然ノ性質トシテ其目的トスル所絹織物業上ノ弊害ヲ矯正シ其改良進歩ヲ圖リ併セテ其販路擴張ノ方策ヲ講ズルニアルヲ論ナシ從テ其業務トシテ見ルベキ須要ノ項目左ノ如シ

- 一 組合員業務上ニ關スル事項ニシテ有益ナルモノハ組合員ニ報導シ或ハ其需ニ從ヒテ紹介ヲナスコト
- 二 絹織物其他必要ナル見本ヲ蒐集シテ當業者ノ參考ニ供スルコト
- 三 輸出羽二重ニアリテハ機業者任意之小團體ヲ結成セシメ専ラ練販賣ヲ勸誘セシムルコト
- 四 組合員事務上ノ統計ヲ審ニスルコト
- 五 組合員業務上ノ利害得失ニ關スル事項ノ質問ハ應答ヲナシ之ヲ調査スルコト
- 六 品評會又ハ共進會ヲ開設シ及ヒ其他ノ方法ニ依リ業務ノ進歩ヲ計ルコト
- 七 共進會博覽會等アルトキハ組合員ニ通テ出品等ノ手續ヲナスコト
- 八 同業者ノ利益ヲ興シタルモノ又ハ職工ニシテ精勵特技アル者ノ賞與規定ヲ設ク之ヲ獎勵スルコト
- 九 絹織物製造品ノ信用ヲ確實ナラシムル爲メ製造者取扱者及關係者ノ責任ヲ明ニスルコト
- 十 本組合ハ證標及證紙ヲ調製シ是ヲ組合員ニ配布スルコト

- 十一 絹織物業ニ關スル何害ヲ講究スル爲メ大小集談會ヲ開クコト
  - 十二 絹織物業ノ改良ヲ計ル爲メ各種ノ検査ヲ行ヒ僥惡ヲ取締ルコト
  - 十三 他ノ絹織物組合ト氣脈ヲ通シ且ツ狀況視察トシテ委員ヲ派出スルコト
  - 十四 官廳ノ諮問ニ答ヒ商業ノ利害ヲ其筋ニ建議スルコト
- 此他時宜ニヨリテハ絹織物ノ價格労働者ノ賃金ヲ一定シ又取引先ヲ制限スル等ノ所爲等モナスモノナリ
- 組合ノ收入 役員ヲ置キテ右ノ如キ業務ヲ執行ス必ズヤ相當ノ經費ヲ要ス即チ 一事務費 二會議費 三検査費 四獎勵費 五証印証票調製費 六豫備費等はナリ從テ此等諸經費ヲ支辨センガ爲メ一定ノ收入ナルベカラズ今之ヲ別テ三トス曰ク縣ノ補助金曰ク郡ノ補助金曰ク組合員ノ納付之ナリ

福島組合	一千〇五十圓
川俣組合	八百圓
田村組合	二百五十圓

ナリ

郡ノ補助金アルハ唯田村組合ノミ其額年百圓ナリ

組合員ノ納付金 此種ノ收入ハ種々ノ各目ヨリナルト雖トモ歸スル所組合員各自ヨリ納付スルモノニ關ス其收入科目概テ左ノ如シ

- 一 證紙料
- 二 證票料
- 三 販賣業割
- 四 雜收入
- 五 繰越金
- 六 機臺割
- 七 證票割
- 八 鑑札料

右ノ内二六七八ノ諸項目ハ福島組合ニ於テ特有ノモノナリ證紙料ハ生産者ヨリ販賣者ノ手ニ移ルニ當テ或ハ整練業者ノ練検査ヲ受クル際ニ必ズ貼付スベキ證紙ノ料金ナリ其額種類ニヨリテ一様ナラズ又組合ニヨリテ異ル川俣組合ニアリテ

第一種羽二重生絹同認ニ貼付スル證紙料一枚自一錢五厘至參錢

第二種並巾平絹及ヒ同認ニ貼付スル證紙料一枚自五厘至壹錢

第三種練上織物ニ貼付スル證紙料一枚自一厘至三厘

第四種箴ニ貼付スル證紙料一枚自二錢至四錢

トシ福島組合ニテハ

第一種羽二重及其類品ニ貼付スル證紙料一枚自一錢五厘至三錢

第二種平絹及其他ノ絹織物ニ貼付スル證紙料一枚自三厘至壹錢

第三種認ニ貼付スル證紙料羽二重自一厘五厘至三錢  
並巾自三厘至一錢

販賣業割ハ買繼商仲買商ヨリ徴收スルモノニシテ評議員會ノ評決ヲ以テ三等ニ分ツ

買繼商	福島	川俣
第一級	一人ニ付金十圓	自金二圓至拾圓
第二級	同 七圓	自一圓至五圓
第三級	同 五圓	自五十錢至二圓

仲買商

第一級	一人ニ付金五圓
第二級	一人ニ付金三圓
第三級	同 一圓

機臺割ハ機業者ノ機臺數ニ割賦徴收スルモノニシテ一臺ニ付キ金十錢乃至五十錢トス  
證票料ハ各組合費ニ配付シアル組合員ノ必ズ所持セザルベカラザル證票ヲ下附スルニ際シテ徴收スルモノニシテ證票割ハ下附證票ニ割賦シテ徴收スルモノナリ

新規	一枚ニ付金二十錢
書替	同 金十錢
再渡	同 金十錢
證票割	同 金十錢

鑑札料福島組合ニ屬スル組合員ノ徒弟タリ職工タラントスルモノハ必ズ組合ヨリ下附セル鑑札ヲ有セザル  
ベカラズ否ラザレバ業務ニ就クコト能ハザルナリ是レ一ニハ機業者ノ職工ノ誘拐ヲ防禦シ一ニハ職工ヲ保護  
センガ爲メニ設ケタルモノナリ

職工及商業使用人鑑札

新規 一枚 金五錢

書替再渡 同 金三錢

徒弟鑑札

新規 一枚 金參錢

書替再渡 同 金二錢

### 第二節 検査所

前述セシ如ク同業組合ノ最重要ナル目的ハ生産者販賣業者并ニ練業者等互ニ氣脈ヲ相通シテ以テ内無用  
ノ競争ヲ避ケ外其製品ノ販路ヲ擴張スルニ在リ而モ其販路ヲ擴張メント欲セバ必ズヤ製品良好ナラズンバアル  
ベカラザルナリ然リ而シテ製品ヲ良好ナラシメントセバ其粗製造ヲ防止セザルベカラズ是レ其検査事業  
ノ組合業務ノ一部ヲナセル所以ナリ然レドモ創立以來日ヲ閱スルコト未ダ大ナラズ從テ猶其不完全ナルヲ免  
レズ

検査所々在り 検査ハ各組合ノ業務ノ一部ヲナスモノナルヲ以テ各組合トモ其所在地ハ其事務上ノ區分

タル各部ト殆ント相同シ

則チ田村組合ハ三春町瀨川村移村ニ之ヲ設ケ福島組合又其各部ニ是ヲ設置セリ川俣組合ニ於テハ検査所ヲ川  
俣町ニ置キ他ハ検査出張所ト稱シ別ニ位置ヲ定メズ必要ニ應マテ常設委員ノ決議ニ依リ是ヲ設置ス然レドモ  
祭典市其他臨時検査出張所設置必要ノ場合ニハ組長ニ於テ之ヲ專行シ後ニ常設委員ニ告知スルモノナリ

検査ノ手續 本縣機業ノ家内の副業的ノモノニシテ小規模ナルコト從テ其賣買方法モ一二疋宛少數製品  
ヲ持チ出ツル市ニ依テナサル、コトモ既ニ説シ所ナリ而シテ右市ハ殆ント隔日又ハ數日毎ニ諸所ニ開場セラ  
ル、ヲ以テ市日以外ニ検査ノ行ハル、コトハ殆ントナシト謂テ可ナリ故テ以テ検査所アリト雖ドモ其検査業  
務ヲナスハ市日ニ限ラル、ガ如シ然リ而シテ市日トテモ各生産者ハ未明ヨリ來集シ一時モ早ク賣却セントシ  
問屋又早朝ヨリ店舗ヲ張リ僅々三四時間内ニ數千疋ノ取引ヲナス而モ検査所ノ検査ヲ經テ検査済ミノ證ヲ得  
ザレバ賣買取引ヲナスヲ得ザル規定ナルヲ以テ問屋ノ店舗ニ集合スルノ生産者ハ先ヅ検査所ノ門口ニ蟻集シ  
テ其検査ヲ受ケズンバアルベカラザルナリ從テ其時間タル僅々兩三時間ニ充タズ而シテ検査員ハ此僅少時間  
ニ於テ別ニ機械ノ力ヲ借ルニアラズ單ニ肉眼ヲ以テ識別検査ヲナス故テ以テ其依ル所ノモノハ唯検査員數年  
ノ經驗ニアルノミ其検査ノ不完全ナル推シテ知シベシ然リト雖ドモ兎ニ角検査ニ合格スレバ兩隣耳ニ検査済  
ノ證印ヲ押捺シ等級ヲ付シ之ヲ返付ス又製品ニシテ糊付ナレバ糊付品丈尺不足ナレバ短尺疵汚染胴切等アレ  
バ疵汚染胴切等ノ證印ヲ織物ノ端ニ押捺スルコトニナレリ

検査ノ標準 検査ハ元ヨリ製品ノ品位及證紙並ニ製造印ノ有無ヲ検査スルノミニ留マラズ



- 一 疵洞切汚染等アルモ證明ヲナシアルヤ否ヤ
  - 二 丈及巾ニ不足ナキヤ否ヤ
  - 三 量目ニ附目ナキヤ否ヤ
  - 四 製品ニ詐偽的ノモノナキヤ否ヤ
- 等ノ如キ諸點ヲ検査スルモノナリ

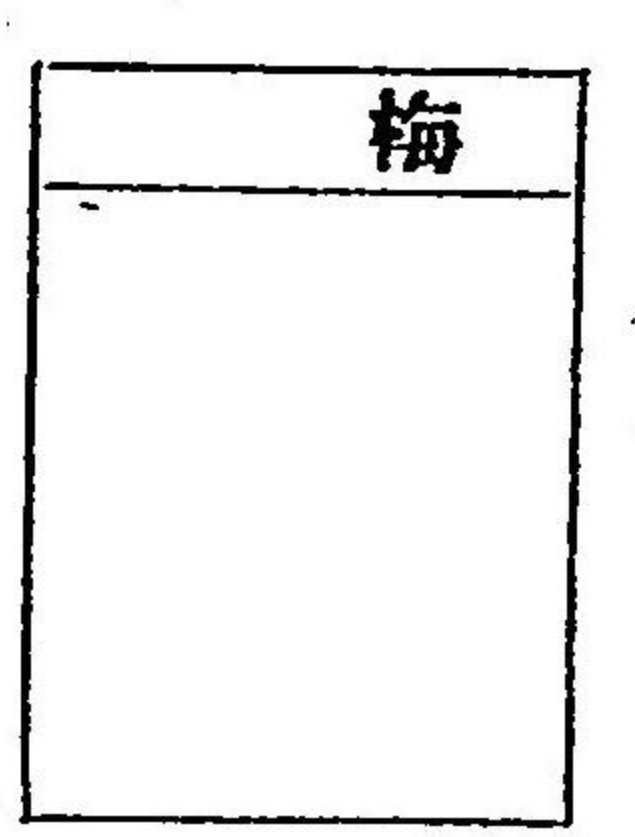
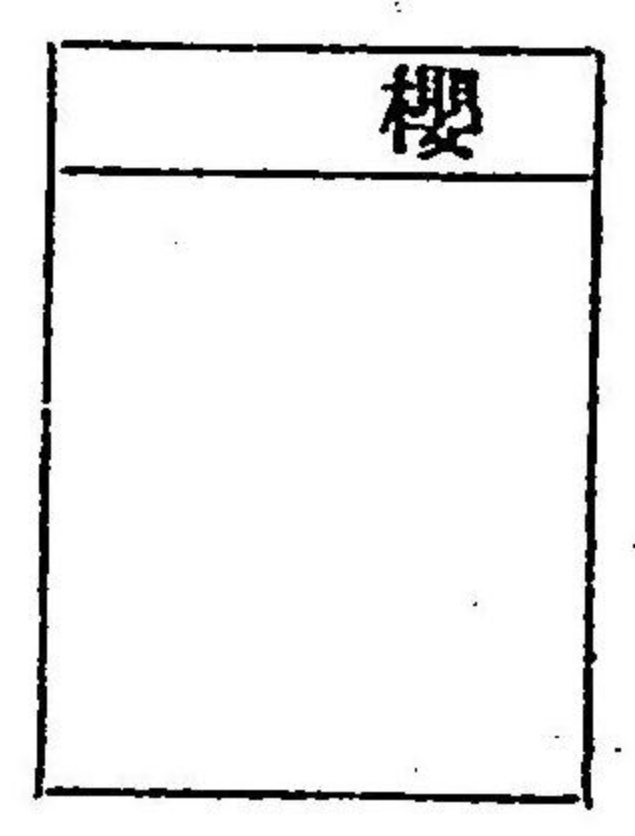
然リ而シテ右検査ノ上ニテ絲質良好組織整齊品位佳良ナル物ヲ以テ合格品トシ(一)組織整齊ナルモ絲質粗惡ナルモノ(二)絲質善良ナルモ組織拙劣ニシテ用途ニ適シ難キモノ(三)經緯絲ノ細太不均甚ダシクシテ纖維不正ノ個所多キモノ(四)地絲質ハ佳ナルモ耳絲質ノ粗惡ニシテ織物ノ品位ヲ保タザルモノ等ハ凡テ之ヲ以テ不合格品トス而シテ此合格品中ヨリ更ニ等級ヲ定ム等ハ凡ソ三等級ニ區別シ検査證紙ヲ貼付ス



- 一 等 金 印
- 二 等 銀 印
- 三 等 銅 印

右ハ福島同業組合ニ於テ定レルモノニシテ川俣組合ニ於テハ前記不合格品トシテ列舉セシ一ヨリ四迄ニ屬スルモノヲ以テ梅印トシ絲質善良組織整齊品位優等ニシテ其用途ニ適スルモノヲ以テ姫印トシ其兩者ノ中間ニ位スルモノヲ以テ櫻印トス而シテ各其ノ名稱ニ應ズル證紙ヲ貼付ス

八 姫	川俣絹織 物同業組 合検査證
--------	----------------------



故キ以テ同ヲク三等級ニ區別スト雖トモ其品位ニ至リテハ前者ヨリ劣ルコト大ナリトス

斯ク三等級ヲナシ製品ノ品位ニ區別ヲ立ツルト雖ドモ恰モ之レ單ニ一ノ形式ニ留ルガ如シ則チ検査濟ノ上之ヲ賣却ノ爲メ買繼商ニ持參スルモ検査所ノ検査證ヤ其價值ヲ有セズシテ一等姫印ノモノニシテ或ハ二等トナリ二等櫻印ニシテ三等トナルコト往々アリ故キ以テ此検査タルヤ少シモ信ヲ措ク能ハズ唯貴重ノ時間ヲ徒費スルノ不利益ヲ受クルニ留マル然レドモ當事者ノ此ニ對スル頗ル樂天的ナリ曰ク一等ヨリ二等ニ下リ三等ヨリ二等ニ上ルガ如キコトハアリ得ルコトナシト雖モ検査所ニ於テ一等ト鑑定セシモノニシテ三等ニ下ルコト又三等ノモノニシテ一等ニ上ルモノナシ故キ以テ其間幾何カ依テ以テ標準トナシ得ル所ノモノアリ決シテ検査所ノ検査無用ノモノニアラズト要スルニ組合經費支出ノ財源タラシムルト同時ニ絹織物産出統計ヲ作ルニ便センガ爲メノ方便タルニ過キザルヤノ觀アリ

検査ヲ受クル製品ニシテ苟モ不正ノモノナランカ其品ヲ預リ置キ精密ニ審査シテ正否ヲ鑑定シ時ニ或ハ必要上之ヲ切斷シ或ハ練試ミテ執行シテ確定ノ後相當ノ手續ヲナサル、ナリ而モ其検査ヲ不當ト信ズルモ之ニ對シテ異議ノ申立ヲナスコトヲ得ズ又再検査ヲ求ムルコトヲ得ザルナリ

練検査 以上ハ生絹ニ對スル検査ニシテ機業者ノ不正品ヲ製スルヲ取締ル爲メノモノナリ次ニ検査員ハ又練上品ニ就テモ検査スルノ權能ヲ有セリ即チ川俣組合定款第七十二條ニ曰ク検査員ハ何時ニテモ練工場ニ臨ミ練上品ノ検査ヲ行ヒ正當ト認ムルトキハ左ノ練検査證印ヲ證紙ニ掛ケ押捺シ若シ不正ノ品ヲ發見スルトキハ其旨直ニ事務所ニ通知スルモノトス

一寸  
川俣絹織物同業  
組合練検査證

如何ニ優等善良ナル製品ナリトテ練上方ニシテ粗漏ナランカ其練上品タル品位ヲ貶セラル、コト甚シ故ヲ以テ練上品ノ検査ヲ行ヒ練上ノ良否善惡ヲ監督スルハ蓋シ必要ナルトトス然レモ川俣ニ於ケル練業者二軒アリテ互ニ競争ノ觀アリ殊ニ近時ニ及ビ福島白河若松地方ニ於テ漸次整練ヲナスモノヲ生ズルノ氣運ニ會スルニ至リタルヲ以テ熱レモ精勵事ニ當リ練上ニ注意スルヲ以テ別ニ不正ノ品ヲ生ズルコトナシト謂フ故ニ第二章第三節ニ於テ少シク述ベシガ如ク検査員ノ検査證印ヨリモ練業者ノ商標却テ大ニ信用アルナリ  
箴検査 猶川俣ニ於テハ箴ニ對シテモ嚴重ノ検査ヲナス即チ検査員ハ隨時箴業者ニ就テ其製スル所ノ箴ヲ検査スルコトヲ得テ製造者ハ此検査ヲ拒絶スルノ權ナキモノナリ而シテ八十羽以下ノ箴ハ之ヲ製作スルコトヲ得ズ是レ織物粗雜ニ陥ルノ恐アルヲ以テナリ

### 第四章 勞働

本縣ノ機織業タル農家ノ子女ニ依テ營マレ其工場の組織ヲ具フルモノ少ナキヲ以テ機業者則チ織工トモ稱シ得メク別ニ其生産ニ干與スルノ一要素タル勞働ナル一章ヲ設テ之ヲ説明スル必要アラザルガ如シト雖モ社會ノ進歩發展ト共ニ勞働問題ニ對スル世論ノ漸ク露々タラントスルノ今日聊カ是ガ概況ヲ述アル亦無用ノ業ニアラザルベシ

男子ハ農ニ星ヲ頂キテ出テ夕ニ月ヲ踏ンテ歸リ終日營々トシテ田畑ヲ耕耘シ女子ハ内ニ在リテ内事ヲ營ム是レ農家ノ通態ナリ然リ而シテ其老タリ幼タル者ニ至テハ元ヨリ力役ニ從事スル能ハザルナリ然リト雖モ農業ノ者タル勞力多クシテ其收益トスル所ノモノ比較的少シ到底男子ノ勞力ノミヲ以テシテハ一家數人ノ口ヲ糊スルコト困難タルヲ免レズ故ヲ以テ老幼ノ家族亦悠々タル能ハズ必ズヤ自己ノ力ニ相當スルノ勞務ニ從事シ以テ汝々家計ヲ助ケザルベカラザルナリ而シテ老幼者ニ最モ適スルモノ蠶桑ニ若クモノナシ此事タル別ニ肉体的ノ勞力ヲ要スルニアラズシテ其收益ヤ比較的多大ナレバナリ然レモ蠶桑業ニ比シテ有利ニシテ而カモ別ニ複雜ナル手數ヲ要セザルモノ猶アリ機織ノ業之ナリ之レ田舎ニ於テ老幼ノ婦女ノ多ク蠶桑機織ノ業ニ從事スル所以ナリ然レモ機織ノ業ニ於テハ蠶桑ノ業ニ比スレバ聊カ多少ノ資本ヲ要シ又特別ノ技能ヲ要ス之レ其子女ノ多ク自家ヲ去テ他ノ資本アリ又技術ニ秀スル者ニ就ク所以ニシテ工女ト稱セラル、特別ノ階級ヲ生ズルニ至ル淵源モ亦實ニ茲ニアリ而シテ同シク工女ト稱スルモ地方ニ依テ年期工女アリ賃取工女アリ各一様ナ

ヲズ即チ本縣ノ如キ川俣地方ニ至レバ皆抱ヒ工女即チ年期工女ナリト雖モ福島地方ニ至レバ賃取工女其多キヲ占ムルガ如シ之レ川俣ノ地タル斯業ニ古キ歴史ヲ有シテ技術卓越セルモノアルヲ以テ傳習ノ目的ヲ有シテ諸地方ヨリ來集スル者ノ多キノ致ス所ナリ

工女ノ生國 此等ノ工女ハ川俣地方ニ在リテハ山形宮城兩縣下ヨリ來ルモノ多ク福島地方ニアリテハ川俣地方ニテ年期ヲ濟シタル者小高地方ニテハ其四隣近在ノ子女ナルガ如ク機業地ノ區域廣キヲ以テ其工女ノ生國ノ如キ一定シテ之ヲ論ズルコト能ハザルナリ然レモ全縣下ノ織工總數ハ七千九百八十一人ニシテ其内男工ハ百九十七名ニシテ残り七千八百餘人ハ女工ノ總數ナリ而シテ伊達安達兩郡即チ川俣組合ニ於ケル女工數ハ五千〇二十六人ニシテ全工女數ノ三分ノ二ヲ占ムルヲ見ル是ニ依テ之ヲ見レバ其多クハ山形宮城兩縣地方ヨリ來ルモノト推スルモ敢テ不可ナキナリ况ンヤ福島地方ノ賃取工女ノ多クハ川俣ニ於テ斯業ヲ修了セシモノナリト謂フニ於テテヤ

サテ此等工女ハ如何ニシテ鄉國ヲ離レ當地ニ來ルヤ換言スレバ其傭入方法ハ果シテ如何ナルモノナルヤハ次ニ起ルノ問題ナリトス然リ而シテ當地方ノ工女ハ上述セシガ如ク皆抱工女ニシテ即チ三年四年ノ年期ヲ以テ傭入レラル、年期工女ナルヲ以テ從テ其產入ニハ別ニ契約證書等ヲ供セズ口頭ノ約束ニ依テ傭入ル、コトモ通俗ニ下女ヲ雇入ルト一般ナリ而シテ昔時ニアリテハ工女トナラントスルノ女子ハ先各自單獨ニ兩親ノ許可ヲ得テ遙々來リテ傭主ヲ索ムルモノ多カリシト雖モ斯業ノ漸次隆盛ニ赴クト同時ニ漸ク工女ノ不足ヲ感セシヲ以テ坐シテ彼等ノ來ルヲ待ツ能ハズ傭主自ら出張シテ是ガ募集ヲナシタルコトアリ然レトモ商況ノ榮枯

盛衰ニ連レテ或ハ不足ヲ感シ或ハ之ヲ減少シ而モ工女ノ需要ト供給トハ常ニ相合致シ難ク時ニ或ハ遙々同地ニ來リテ雇先ナキタメ空シク郷里ニ歸ルモノサヘ生ズルコトアリ此ニ於テカ其工女ノ仲介トシテ慶庵ナルモノヲ生ズルニ至リ一方ハ宮城山形地方ヨリ來ルモノヲ集容シテ傭主ヲ搜索シ他方ニハ需要者ノ依頼ニ應シテ之レヲ供給ス然レドモ近時羽二重價格ノ變動甚ダシク商況一定セザルヲ以テ生産者ハ各自大ニ戒心シ規模ヲ縮少スルノ結果工女ヲ要スルコトモ比較的少ナク從テ慶庵ニ依ルコトモ亦甚ダ多カラザルガ如シ  
福島組合ニ於テハ商況活潑隆盛ノ際ニ起ル工女ノ誘拐ノ弊ヲ防ガンガ爲メ工女タルモノニハ豫メ鑑札ヲ下附ス其鑑札下附申請書及鑑札ノ雛形左ノ如シ

第 號	福島絹織物同業合職工
住 所	商業鑑札
雇 主	氏 名
原 籍	住所何之誰何女(何男)又ハ何々等
氏 名	生 年 月
契約年限	自何年何月日 至何年何月日



當地機業ノ隆盛ヲ計ル上ニ於テ第一ニ着手スベキノ業ナリトス

反之小高地方福島地方ノ如キハ其工女タル大概地方ノモノ或ハ川俣ニテ年期修了シタルモノニシテ賃取工女ナルヲ以テ前借金ノ如キモノナクシテ多ク織上ケタル製品ノ數量品質ニ依リテ給料賃金ヲ支給セリ其労働時間ハ川俣ニ比スレバ非常ニ寛大ニシテ朝六時ニ業ヲ始メ夜ハ八時ニ至レバ之ヲ了ルコニ定マレリ小高某機業者曰ク當地ノ工女労働時間ハ川俣ニ比スレバ僅少ナリト雖<sub>レ</sub>夜間充分ノ安眠休息ヲ取り得ルヲ以テ工女ノ精神非常ニ清爽ナリ從テ勞務時間中ハ精勵注意シテ怠ラザルヲ以テ其結果頗ル良好ナリト以テ其労働時間ノ徒ニ長キノ決シテ利益ヲラザルヲ知ルベシ猶<sub>ホ</sub>休日ノ如キモ毎月三回ト定メ居ル所アルガ如シ

福島組合ニ於ケル工女ノ賃銀ハ各部ニ於テ時々之ヲ定メ一定セリ今其第一部ト第五部トニテ定ムル所ノモノヲ掲ケテ之ヲ示サン

羽二重織賃表(第五部)

一幅一尺八寸五分以下	四本織	金一圓四十錢
一个月	五本織	金二圓五十錢
同	六本織	金三圓六十錢
同	七本織	金四圓三十錢

但シ一个月一本ヲ増ス毎ニ金七十錢宛ヲ増給ス

一幅二尺四寸二分以上	四本織	金二圓五十錢
一个月	五本織	金三圓五十錢
同	六本織	金四圓三十錢

但シ一个月一本ヲ増ス毎ニ八十錢宛ヲ増給ス

羽二重織賃表(第一部)

本織ノ部

鯨尺三尺二寸幅	一本	金一圓七十錢
同 二尺四寸二分	同	金一圓四十錢
同 一尺八寸五分	一本	金一圓二十錢
同 一尺五寸五分	同	金一圓十錢
同 一尺三寸五分	同	金一圓

一 鯨尺一尺八寸五分以上ノモノヲ五本以上織上ケルモノニハ相當ノ増給ヲナス

一 給食者ハ一日金九錢宛ノ食費ヲ差引クモノトス

一 総絲不長ニシテ織思キモノニハ相當ノ賞金増給スルモノトス

月給ノ部

一等職工 一个月

金四圓

二等職工 一个月

金參圓

鯨尺一尺八寸五分以上ノモノヲ五本以上織ルモノ

授業師一个月金參圓以上十圓以下

工女奨勵法 川俣地方抱工女ニ就テモ幾本織上クレバ若干金ヲ與フル等ノ奨勵ノ方法ヲ設ケ殊ニ年期奉公ニシテ給料ヲ與ヘザルヲ以テ壹本ニツキ二十錢十五錢ト給與ノ規定ヲ設ケ以テ精勵セシム而シテ此内ヨリ結髮小使等ヲ辨ゼシメ殘餘ヲ貯蓄セシム故ヲ以テ年期修了後ニハ積ンテ二十圓十五圓ニ至ルベキ豫定トナレリ此他良好ノ物ヲ織リ上クレバ別ニ賞與ヲ與フルヲ得ルヲ以テ終日長時間ノ勞働モ漸ク堪ヘ得ルガ如シ

福島地方ニ於テハ前述セシ如ク各部ニ於テ賞銀表ト共ニ大略ノ賞與規定ヲ設ケ居レリ猶ホ福島ノ町ヲ隔ル里許瀬上村ニ在ル機業合資會社ニテ規定セル賞與規定ヲ掲ゲテ參考ニ供ス

奨勵法

普通上等品尺五寸幅以上一个月五本以上織ルモノ

金五十錢

同

同

四本半

金二十錢

同

同

四本

金十錢

特別優等金印ノモノハ更ニ一本ニ付

金十錢

右甲乙組ノ工女ニ給ス

普通上等品尺三寸幅以上

一个月

四本以上ノ者

金五十錢

一个月

三本半以上ノ者

金二十錢

同

三本以上ノ者

金十錢

特別優等金印ノ者ハ更ニ一本ニ付

金二十錢

右者丙組ノ者ニ授與ス

蓋シ甲乙丙組トハ該會社ニ於ケル職工ノ等級區別ニシテ其甲乙丙ノ三組ニ分チ特定ノ賞與ヲ給與スルハ各々夫レ相當ノ精力ヲ發揮シテ製織ニ従事スルヲ奨勵スルニ足リ頗ル良策ト稱スベシ又特ニ優等工女ノ姓名ヲ工場内ニ掲ゲテ公表ニ表示ス

猶其各自注意スベキ事項ヲ揭示シ善良ナル製品ヲ織上グルニ勉メシム其點左ノ如シ

ヒアヒ

ソウキ  
 スクヒ  
 タテ糸メケザルヨ  
 カタヨリガセメヨ  
 ケンシユハカシメルヨ  
 ヒキヨニテキヌヨ  
 タテツリナキヨ  
 ヒダリツノ出来ヌヨ  
 テサハダカリナキヨ

終ニ臨テ以上各雇主ノ獎勵ノ外福島組合ニ於テハ別ニ組合員並ニ職工ニ對スル賞與規定ヲ設ケリ即チ其第一條ニ於テ職工ニシテ功勞顯著業務勉勵成績良好ナルモノニハ本規定ニヨリ之ヲ賞與ス又第三條ニ職工ニシテ左ノ各項ニ該當スルモノハ評議員會ノ評決ヲ經テ之ヲ賞與スベシ

- 一 品行方正ニシテ三年又ハ五年以上勤績シ他ノ鑑トナル者
- 二 品行方正業務勉勵成績良好ナル者
- 三 其他雇主ニ忠勤ナル者又ハ業務ノ爲メ特ニ利益ヲ與ヘタル者

右之三項ヲ舉ゲリ而シテ之ニ該當スル者アルトキハ僱主ヨリ部長ニ申告シ部長ハ之ヲ組長ニ上申シ金員物

品又ハ賞狀ヲ賞與ス加之新聞紙ニ登載シテ其名譽ヲ表彰シ仍毎年一回組合員ニ公告スルコトナレリ殊ニ又其功勞ノ一層顯著ナルモノニハ縣知事ヨリ褒賞ヲ乞フコトトセリ

年期終了後ノ工女 上述セシ如ク漸ク其技ヲ習得シ相當ノモノヲ織リ上グル様ニ至レバ年期亦到來ス年期後ハ或ハ留リテ主家ニ在リ業務ヲ助クルモノト去ツテ賃取工女トシテ他家ニ機械ニ從事スルモノトアリ而モ賃取工女トナル者其大部分ヲ占ム而シテ其技術優良ナルモノハ或ハ授業師トナリテ機業者ノ雇聘スル所トナルモ其餘ハ歸リテ多年修得シタル技術ヲ以テ其家計ヲ助クト謂フ

川俣地方ニ來ル女工ハ皆初心ノモノニシテ未曾テ機臺ニ上リタルコトナキモノナルヲ以テ始メ家事の雜用ヲナサシメ絲線管卷絲揃ト次第ニ其階梯ヲ經テ家ニヨリテハ特ニ之ヲ教ユル處アリト雖トモ概テ他女工ノ織上クルヲ見聞シ不知不識ノ間ニ其機械ノ方法ヲ習得スルモノナリト云フ其日常生活ノ狀況ハ其機業ノ家内の工業タル丈々其雇主トノ關係通勤賃取工女ノ外ハ雇主ト起臥飲食ヲ等フシ家族的ナリトス然レトモ其待遇飲食等ヨリ見レハ寧ロ普通主人ト下婢トノ關係ノ如シ

以上ハ女工ニ就キテ説キタリ又斯業ノ性質上男子ノ生産ニ直接參與スルノ點ハ殆ントナシト謂フテ可ナリ皆總絲ノ繰リ返シ其他ノ雜務ニ從事スルモノナリ故ニ之ヲ説カズ只小高地方ニ於テハ往々男工ノ女工ト同ク機臺ニ上ルヲ見ルヲ一言セントス

# 第五章 製品

## 第一節 種類

當地産出スル所ノ絹織物ノ種類タルヤ極メテ多ク一々枚舉ニ遑アラズト雖モ大概皆少額ノ産出アルニ止リ而モ内地用ニ供セラル、ニ過キズ其實際多額ノ産出アリ販路ノ我邦内ニ止マラズシテ汎ク海外ニ輸出セラレ其需要ノ最モ大ニシテ重要ナル片羽二重ニ若クハナシ絲織類七子類等ノ産出之ニ次ク今其主タルモノ、數量價格ヲ記載セシ

明治三十二年度調

種類	數量	價格
羽二重類	一三八、三七八	二、二六五、四三五
斜織類	八、七一七	四四、六九九
絲織類	七、一六二	六〇、二二一
平絹類	五四、四一四	二三八、〇〇四
絹太織類	六、五七一	五六、五五四
縮緬類	五、二七六	一六、五六三
紋緬類	三〇五	二、二二三
縮緬類	二四一	一、九九三
透綾類	四八	三二六

海絹類 <th>袴地類 <th>男帶地 <th>女帶地 <th>其他 <th>合計</th> </th></th></th></th>	袴地類 <th>男帶地 <th>女帶地 <th>其他 <th>合計</th> </th></th></th>	男帶地 <th>女帶地 <th>其他 <th>合計</th> </th></th>	女帶地 <th>其他 <th>合計</th> </th>	其他 <th>合計</th>	合計
四九	一四六	一八七	一五一	二四五	二八、七六〇
					一三八、三七八
					五四、四一四
					三三八
					一八五、六三二
					二、二六五、四三五
					三三八、〇〇四
					二、四二八

而シテ其輸出先ハ米國印度ノ兩地ニシテ殊ニ其孟買ニ至ルモノ十中ノ八九ヲ占ム皆白無地ニシテ色染メノ如キモノ一モナシ其長サハ皆一定ニシテ五十嗎ナリト雖モ其幅ニ至テハ固ヨリ一定セズ然レモ大約分ツテ二〇インチ二十三インチ二十七インチ三十六インチノ四幅トスルヲ得目付ハ四匁半付ヨリ五匁付ヲ普通トス又其等級ハ只米國向一等二等三等若クハ孟買向一等二等ト謂フニ止マリ福井地方ノ松竹梅印ノ如キ一定ノ區別アルナシ

其相場ハ統計ノ依ルベキモノナキヲ以テ明細ニ之ヲ知ルコト難シ故ヲ以テ今福島町油井商店ノ取調アル所ニ依リ其累年ノ比較表ヲ左ニ掲ク



羽二重相場累年比較表

月次	三十一年					三十二年					三十三年					三十四年					三十五年				
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均				
一月	五、八五五	五、七〇五	五、八〇〇	六、一五〇	六、一〇〇	六、一五〇	八、五〇〇	八、四〇〇	八、五〇〇	六、〇〇〇	五、六〇〇	五、九〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	五、九〇〇	五、六〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇				
二月	五、七〇五	五、六五五	五、六八〇	六、六〇〇	六、三〇〇	六、四〇〇	七、八〇〇	七、八〇〇	八、〇〇〇	五、八〇〇	五、六〇〇	五、七五〇	六、四〇〇	六、一〇〇	六、四〇〇	五、五〇〇	五、六〇〇	六、一〇〇	六、四〇〇	六、一〇〇	六、三〇〇				
三月	五、七〇五	五、六〇五	五、六五〇	六、八〇〇	六、五〇〇	六、六〇〇	七、八〇〇	七、八〇〇	八、〇〇〇	五、八〇〇	五、六〇〇	五、七五〇	六、四〇〇	六、一〇〇	六、四〇〇	五、五〇〇	五、六〇〇	六、一〇〇	六、四〇〇	六、一〇〇	六、三〇〇				
四月	五、五〇五	五、三〇五	五、四〇〇	六、〇〇〇	六、五〇〇	六、八〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	七、七〇〇	五、七〇〇	五、五〇〇	五、七〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	五、五〇〇	五、六〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇				
五月	五、六〇五	五、一〇五	五、三〇〇	六、〇〇〇	六、六〇〇	六、九〇〇	六、四〇〇	六、四〇〇	六、六〇〇	五、九〇〇	五、九〇〇	五、九〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	五、九〇〇	五、九〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇				
六月	五、七〇五	五、六〇五	五、六五〇	七、〇〇〇	六、五〇〇	六、六〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	七、〇〇〇	六、四〇〇	六、四〇〇	六、六〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇				
七月	五、九〇五	五、七〇五	五、八〇〇	七、〇〇〇	六、七〇〇	六、九〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	七、〇〇〇	六、六〇〇	六、六〇〇	六、七〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇				
八月	五、九〇五	五、七〇五	五、八〇〇	七、〇〇〇	六、七〇〇	六、九〇〇	六、八〇〇	六、八〇〇	七、〇〇〇	六、六〇〇	六、六〇〇	六、七〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇				
九月	五、九〇五	五、八〇五	五、八五〇	七、五〇〇	七、三〇〇	七、三〇〇	六、四〇〇	六、四〇〇	六、五〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、三〇〇				
十月	五、九〇五	五、八五五	五、八五〇	八、三〇〇	七、五〇〇	七、五〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、三〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、一〇〇	六、一〇〇	六、一〇〇	六、一〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	六、〇〇〇	六、一〇〇	六、一〇〇	六、三〇〇				
十一月	五、九〇五	五、八五五	五、八五〇	九、八〇〇	八、九〇〇	八、九〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	六、〇〇〇	六、一〇〇	六、一〇〇	六、三〇〇				
十二月	五、九〇五	五、八〇五	五、八五〇	九、八〇〇	八、九〇〇	八、九〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、八〇〇	五、七〇〇	五、七〇〇	六、〇〇〇	六、一〇〇	六、一〇〇	六、三〇〇				

右ハ川俣羽二重ニシテ各巾輕重ノ平均生羽二重百匁ニ對スル直段即六、二五ハ百匁六圓二十五錢ヲ示シタルモノナリ

第二節 産地及産額

本縣ハ一市十七郡ヨリ成ル其範圍廣大ナリト雖モ何ノ郡モ皆多少ノ絹織物ノ産出ナキハナク漸テ遂テ益

隆盛ナラントスルノ傾アリ殊ニ川俣組合ニ屬スル伊達安達兩郡ヲ以テ其主タルモノトス  
明治三十二年度羽二重産出地一覽表

機	戸	株	數	職		製		價
				男	女	量	額	
信夫	二〇八	四〇三	四	四	七、二五四	一〇八、八一〇		
伊達	二、二九〇	四、〇〇四	四九	三、九一七	七九、九六三	一、四三一、〇〇九		
安達	四六七	九八二	七	二〇九	一三、九八六	二、四四、二四六		
安積	八	一六	二	一三	一三五	二、一九二		
岩瀬	八	三五	一	四三	二一三	三、八三七		
南津	七七八	三八二	一	八三六	一	四、二二五		
北會	二	八	〇	一〇	三〇〇	五三、九七三		
耶麻	八	二〇二	三	一九八	三、一六六	一九、二一〇		
大河沼	三	二四	一	二七	三、一四七	一四、七六〇		
大河沼	六	二八	一	三一	九八四	三、四八一		
東河	九	四〇	六	三一	二二一	九四、〇三四		
西河	四六	二一九	二〇	一七四	六、二一一	三、七五七		
石川	六	三六	二	三五	二七六	五五、〇四八		
田村	七五	一九九	一	一八五	三、三四〇	一、五四四		
石城	二八	一三九	一	九三	九七	二五、七八三		
双葉	二七	八五	一	七五	二、七一四	一七九、〇七六		
相馬	九七	四〇一	一	四三二	一五、八五七			

今更ニ最近六年間ニ於ケル絹織物總体ノ産額ヲ示サシ

絹織物累年産額比較表

年次	數量	價	格
二十七年	三七四、九七八	九七一、三五〇	
二十八年	四九八、八四九	一、一九四、四一五	
二十九年	三八二、一七四	九八七、五〇九	
三十一年	七〇、八三〇	一、九九一、二四二	
三十二年	二八、七六〇	三、三六八、七五五	
三十三年	二四、四一四	二、六九一、五〇〇	
三十四年	二九、三三六	三、〇八八、四二〇	
三十五年	三三、四一四		
三十六年	三三、四一四		
三十七年	三三、四一四		
三十八年	三三、四一四		
三十九年	三三、四一四		
四十年	三三、四一四		

第六章 運送及保險

生産者ト買繼商トノ關係ニ付テハ第三章ニ於テ之ヲ述ベタルヲ以テ今ヤ横濱ニ輸送セラル、ノ手續ヲ説カ

荷造 片羽二重ノ荷造ハ一個九貫目トスルヲ以テ普通トス從テ一梱中ノ本數ノ如キ片羽二重ノ種類ニ依テ異ナリ一定セザルナリ然レモ何レモ之ヲ厚紙ニ包ミ其上ヲ油紙ヲ以テ覆ヒ上下共ニ板ヲ置キ繩締トナスナリ而シテ荷爲替ヲ取リ租ミ銀行ノ閱覽ヲ經タル後兩側ニ板板ヲ宛テ、其上ヲ藁包トシ之ヲ停車場ニ送リテ瀛車積トシ横濱ニ送ル

今本縣下ニ於テ運送業ニ從事セルモノヲ示シ參考ニ供ス

合 名 會 社

社 名	所 在 地	資 本 金
三春合名通運會社	三 春 町	一、〇〇〇
芳賀渡邊合名會社	小 野 新 町	一、〇〇〇

合 資 會 社

社 名	所 在 地	資 本 金
二本松廣運合資會社	安 瀨 郡 下 達 村	三、〇二五
運送合資會社	岩 手 郡 須 賀 村	四、三七〇
合資會社常葉運送店	田 代 郡 全 石 平	一、〇〇〇
平運送會社	石 川 郡 平 石 町	一、五〇〇

共同合資會社	原相馬町郡	三一四	五、〇〇〇	四二〇
--------	-------	-----	-------	-----

五十六

株式會社

內國通運會社支店	信島	六八		
福島誠一會社	同	三二六	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
公益廻送社	河沼	一九九	三、五〇〇	三、五〇〇
白河石材運搬會社	西坂	三、二一二	一五、〇〇〇	七、五〇〇
三春馬車鐵道會社	白河	二四五	三四、二〇〇	三四、二〇〇

是ニ依テ之ヲ觀ルニ一萬圓以上ノ資本金ヲ有スルハ內國通運會社支店福島誠一社及三春馬車鐵道會社ノ三ニシテ而シテ其一ハ馬車鐵道ニシテ小區域間ノ運送ヲ業トスルノミ其眞ニ斯業ニ關係アルハ內國通運會社福島誠一社ノ兩社トス而シテ其各出張所ヲ川俣ニ設置セリ

保險 羽二重ハ高價品ナレバ保險ニ附セザレバ銀行之ニ荷爲替ヲ取組マズ故ヲ以テ必ズヤ運送保險火災保險ノ必要アリ然レモ其產額最モ盛ナル川俣地方ニ於テスラーノ保險會社ナク又出張所ナシ皆運送業者ニ於テ之ヲ取扱フ銀行亦之ヲ信賴シテ以テ荷爲替ヲ取組ムガ如シ最モ兩三年前迄ハ海陸保險會社ノ代理店ヲ福島誠一社ニテ取扱ヒシヲアレモ今ヤナシ然レモ送先トノ距離左程遠カラザルヲ以テ安全ナリト謂フ

運送店ニテ取扱フ保險ノ保險料ハ川俣ヨリ東京橫濱迄金一千圓ニ付キ六十錢ナリト謂フ

運賃ハ十貫匁ニ付キ東京迄一圓十一錢ニシテ橫濱迄二圓二十四錢ナリ又川俣ト松川停車場間ハ二十五錢トス然レトモ固ヨリ一定セルモノニアラズ其都度濱迄幾何金ト契約スルヲ多シトス

第七章 金融機關

今ヤ羽二重ノ産地全縣下ニ散布スト雖モ數年前迄ハ川俣地方ニ限ラレ殊ニ今猶ホ全産額ノ三分ノ二ハ當地ノ産ナリトハ前數回陳述シタル所從テ之ガ金融機關ノ梗概ヲ述アルニ當リテモ先ツ川俣地方ニ就テ述アルヲ以テ至當ナリト信ズ

川俣ニ於テ銀行業ノ開始セラレタルハ漸ク三年前ノ事ニ屬ス其以前銀行ナルモノナシ然レモ既ニ業ニ多額ノ産出アリ焉ソ銀行類似ノ金融機關ナクシテ可ナランヤ是レ當地ニ於テ

永續社 一五、〇〇〇

ナル銀行類似業者ノ

夙ニ生ゼシ所以ナリ然レモ年々ノ産額百萬圓ヲ超ユ到底之ガ金融ヲ圓滑ナラシムルニ足ラザルナリ故ヲ以テ之ガ補助ノ機關ナクンバアルベカラズ是レ當地ニ於テ質屋營業者ノ比較的スキ所以ナリ從テ當地ニ於ケル質業者ノ斯業ヲ補助セシ點ヤ實ニ少々ニアラズ

抑モ當地ニ於テ斯ル高價品ノ生産アルニ拘ハラズ之ガ金融機關ノ斯ク不完全ナルハ是レ當地機業ノ所謂副業的ニシテ家内的小工業ナルノ來ス所ナラズンバアルベカラズ何トナレバ銀行ニ於テハ比較的多額ナラザレ

ハ金融ノ便ヲ得セシメザルモ質屋ヤ却テ多額ノ者ヨリモ二本三本ノ如キ小額ノ者ヲ喜ブテ以テナリ現時當地ニ於ケル銀行ハ福島百七銀行支店東京安田銀行支店兩者トス何レモ豊富ナル資金ヲ以テ金融ノ掌ニ當レリ其荷爲替ノ取組ハ大概原價爲替ナリト謂フ然レモ先年羽二重ノ價格下落ニ際シテ銀行ハ意外ノ打撃ヲ蒙リ損失少ナカラザリシヲ以テ爾來七掛八掛ヲ以テ極度トス而モ稍モスレバ顧客ノ歡心ヲ買ハンガ爲メ聊カ緩ニスルノ傾向ナキニアラズ今其當縣ノ金融機關ノ配置ヲ示シ金融ノ一般ヲ知ラシメンガ爲メ左ニ銀行及銀行類似業者ヲ列舉シ其所在地並ニ資本ノ金額ヲ示サントス

勿論此等銀行ハ凡テ機業ノ機關タルニハアラズト雖モ亦以テ參考トスルニ足ラン

明治三十一年度調

名	稱	所在地	創業年月	資本金	積立金
東京安田銀行支店		信濃郡太田町	明治十六年	六、〇〇〇	一、二〇〇
小濱機業合資會社		河津郡常沼村	三二〇四	一、三七五	四七三
興業合資會社		野澤郡常沼村	三二〇二	一、三七五	四七三
野澤成ル合資會社		大野郡沼澤村	三二〇一	五、〇〇〇	一、一〇五
大沼農工合資會社		旭郡沼澤村	三一〇九	五、〇〇〇	一、〇〇〇
川上合資會社		東白河郡白河村	三一〇四	三、〇〇〇	三、〇〇〇
小綱木農工合資會社		同郡白河村	三一〇三	二、二二〇	二、二二〇

名	稱	所在地	創業年月	資本金	積立金
安田銀行中村支店		中馬郡中村町	〇二六〇七	二、〇〇〇	
安田銀行若松支店		若松市	二三〇二		
第百七銀行		福島郡島松町	一一〇一〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四三七、五〇〇
川俣永續社		伊達郡川俣町	一一〇三	一五、〇〇〇	七七、〇〇〇
第百七保原支店		信濃郡太田町	一一〇五		一、一九二
福島商業銀行		福島郡島松町	一三〇六	二〇、〇〇〇	七五〇
福島商業銀行		福島郡島松町	〇二九〇八	二二五、〇〇〇	六、三五〇
川俣友愛社		伊達郡川俣町	三一〇五	七、〇〇〇	八〇
第百一銀行		同郡川俣町	一一〇九	二二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
本宮銀行		安達郡本宮町	一一〇一	二二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
須賀川銀行		須賀郡須賀町	一三〇三	一一〇、〇〇〇	七五〇
田島銀行		南會津郡田島町	二九〇〇	一〇、〇〇〇	一、五〇〇
棚倉協同會社		東白河郡棚倉町	一一〇一	一五、〇〇〇	二、三一〇
棚倉盛榮社		同郡棚倉町	一四〇四	四、五〇〇	六九
棚倉銀行		同郡棚倉町	二六〇六	一〇、〇〇〇	八〇

三春	磐城	平銀	相馬	會津
三田	石平	同行	相馬	津銀
郡	郡	郡	郡	市
町	町	町	町	市
一〇、一〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	三二、〇〇〇	二九、〇〇〇
六〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
六〇、〇〇〇	八七、五〇〇	五〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	一二五、〇〇〇
五、五〇〇	一二、〇〇〇	六、五〇〇	七二〇	一二、四二〇

### 第八章 原料

本縣ハ生絲ノ生産ニ就テハ古來其名聲宇内ニ冠絶シ其産額亦多大ナリ殊ニ信夫伊達ノ兩郡ノ如キニ至リテハ製絲ノ技能ニ於ケル發達實ニ顯著ナルモノアリ故ヲ以テ絹織物ノ名産地タル西京栃木群馬等諸縣ノ使用スル原料タル往時ヨリ此ヲ是ノ地ニ仰キ今ニ至テ猶ホ之ガ供給者タルノ地位ヲ失ハザルノミナラズ漸テ遂テ益販路ノ擴張セラル、ヲ見ル維新以來外國貿易ノ開クルト共ニ年ヲ遂テ海外ニ向テ輸出セラル、モノ亦多キヲ加フルニ至レリ今ヤ其総産出實ニ數百萬圓ノ上ニ出テ縣下唯一ノ重要物産タルノミナラズ我國輸出品中ノ重要ナルモノトナレリ

然リ而シテ其大部分タル所謂坐繰生絲ニシテ器械生絲ノ如キニ至リテハ其産出極メテ少シ殊ニ此地方飼育スル所ノ繭ノ種類タル小石丸大石丸赤熟等ヲ始メトシテ其數百數十ニ上ル故ヲ以テ彼ノ關西地方ノ如ク使用

スル繭ノ一二良種ニ限ラレ從テ生ズル所ノ製糸ノデジュール其他品質ノ均一ナルガ如クナル能ハズ此レ吾人ノ遺憾トスベキ所ナリ近來有力ノ士等是ニ感ズル所アリ大ニ繭種ノ一定セザルノ不利ナルヲ唱道シ當事者ノ反省ヲ促シ縣ノ蠶業學校亦繭種ノ比較研究ヲテセルガ如キハ大ニ本縣ノ爲メニ喜ブベキノコトナリ

### 第一節 産地及産額

本縣機械業ノ農家ノ副業的ニ營マル、ヤ前既ニ述ベタル所ニシテ其原料タル生絲ノ生産モ亦同ク副業的ナリ而モ其範圍ヤ極メテ廣汎ナリ蓋シ其性質資本ヲ要スルコト少ナキノ致ス所ナラスンベアラス今生糸産地分布ノ狀況ヲ示セバ左ノ如シ

明治卅二年度調

郡	市	名	器	械	生	糸	貫	坐	繰	生	糸	貫
信	伊	安	安	岩	南	北	耶					
夫	達	達	積	瀨	津	津	會					
八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三	八八三					
一一、三〇〇	二六、九一一	一五、八七六	九、七一一	一、三二四	一、五六九	六二	一、八八六					
四、七八〇	四、七七〇	四、七七〇	四、七七〇	四、七七〇	四、七七〇	四、七七〇	四、七七〇					

大	河	東	西	石	田	双	相	若	合
			白	白					
沼	沼	河	河	川	村	城	葉	馬	計
一八六	四八三	一八〇	一、五五〇	七〇	七八四	六二九	五九七	一一、一一八	
六五〇	一、一四五	二、五五五	三、二八五	二、一七二	一四、七五二	四、二一一	三、五九一	一一、六二二	一一三、五八二

是ニ依テ之ヲ觀レバ其器械生糸ハ坐繰生糸即チ農家ノ副業ニ營マル、モノ、十ガ一ニ當ラズ以テ其大部分ノ農家婦女ノ手ニ成ルモノニシテ器械ノ力ニ依リテナサル、モノニアラザルヲ知ルニ足ル抑モ本縣ニ器械生糸ノ少ナキヤ地方人士ノ團結心ニ乏シク合同的事務ノ行ハレザルニ依ルベシト雖トモ亦古來生産者各自ノ久シキ經驗ニ依リテ生糸トシテ賣ルノ繭ニテ賣ランヨリモ有益ナルヲ知レルヲ以テ多數原料ヲ得ルコトノ難キノ致ス所ナラズンバアラズ是レ往古ヨリ隆盛ナリシ信夫伊達ノ諸郡ニ器械生糸ノ産額皆無ニシテ却テ新進ノ地方ニ其多キ所以ナリ

猶ホ是レヲ生産スル場所ニ依テ區別スレバ

信	伊	安	安	岩	南	北	耶	大	河	東	西	石	田	双	相	若
					會	會					白	白				
夫	達	達	積	瀨	津	津	麻	沼	沼	河	河	川	村	城	葉	馬
四	五	三	四	一	七	九	二	三	五	一	七	〇	一	〇	一	二
六、四九八	一一、二〇七	五、九二〇	一〇八	三〇六	一、三六八	六六	一、二六三	三、八二二	六、五二二	五、六	九〇	一、一五九	四、五八三	一、五四二	三、五四九	一、六九八
七五																

右ハ固ヨリ生絲ノミニ千セズ慰斗絲玉絲屑絲真綿ノ製造戸數ヲモ含ムト雖トモ前表ト相對照セバ思ヒ半ニ過ルモノアラシク今又其生絲製造ニ從事スル會社ヲ左ニ掲ケン

名稱	所在地	創業年月	總額	拂込
正製組	郡山町	一三〇七	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
合名會社小峰館	白河町	二〇〇七	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
三盛合名會社	三春町	一三〇六	一二、七〇〇	一二、七〇〇
山田合名會社	田村郡	一九〇七	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
萩野合名會社	小野新川町	二七〇六	三、五〇〇	三、五〇〇
田村精米合名會社	逢根村	二七〇七	二、五〇〇	二、五〇〇
石井合名會社	小谷田川村	二九〇五	五、六〇〇	五、六〇〇
合名會社石舟社	石井泉村	三二〇八	六、〇〇〇	三、〇〇〇
木村合名會社	安達城郡	三一〇四	二、〇〇〇	二、〇〇〇
安達坐繰會社	二本達松郡	二六〇七	九、八〇〇	九、八〇〇
真製合資會社	安山積郡	一四〇七	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
富久山製絲合資會社	富山村	二八〇二	六、五〇〇	六、五〇〇

名稱	所在地	創業年月	總額	拂込
九組製絲合資會社	須賀川郡	二八〇六	二、〇〇〇	二、〇〇〇
弘管合資會社	喜多摩郡	三一〇六	六、〇〇〇	六、〇〇〇
製糸北辰合資會社	喜多摩郡	三一〇七	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
開管合資會社	全郡	三三〇六	七、〇〇〇	七、〇〇〇
大沼製糸合資會社	永沼村	二八〇七	二、八〇〇	二、八〇〇
藤井製糸合資會社	前川村	二九〇七	六、〇〇〇	三、五三〇
白河製絲合資會社	白河町	二九〇五	二、四〇〇	二、四〇〇
矢吹製糸合資會社	西吹河村	三〇〇一	六、〇〇〇	六、〇〇〇
釜子製糸會社	全谷子村	三〇〇三	五〇〇〇	三、五〇〇
釜山製糸合社	全谷山子村	三一〇四	六、三〇〇	六、三〇〇
川崎製糸合資會社	石川崎村	三一〇五	七、〇〇〇	七、〇〇〇
川東合資會社	石川東川郡	二九〇二	二、七五〇	二、七五〇
淺川合資會社	淺川村	二九〇六	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
坐繰合資會社	中谷村	二九〇七	一、五〇〇	一、五〇〇
北辰合資會社	全山村	三一〇六	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
大供合資會社	守田山村	二九〇七	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

共榮合資會社	高瀬村	三〇.五	五,三〇〇	二,〇〇〇
守山合資會社	守山村	三一.七	九,四五〇	九,四五〇
川部製糸合資會社	川石部城村	二八.九	一,〇〇〇	一,〇〇〇

今之ガ年々ノ産額ヲ檢スルニ前年ノ失敗ニヨリ製造戸數ニ一万四千六百六十八戸ヲ減少セリト稱スルニ明治卅二年ニ於テ其産額生糸十二万四千七百貫屑糸五万八千三百三十貫合計十八万八千四百七十五貫ニシテ前年ノ産額十三万六千〇五十六貫ニ比スレバ實ニ四万八千九百〇九貫ヲ増加セリ蓋累年機業ノ發達ニ伴ヒ其原料トシテ使用セラルモノ多キヲ以テナリ今明治二十四年以來累年ノ生糸産額統計表ヲ掲グ

年次	製造所	自	宅	總數	生糸			玉	絲
					器	械	其		
二四				一一七,〇九五	八五		五〇八一四,〇八九	四,四三三	
二五	未詳			一〇九,一〇六	八〇		三五九一二,七五七	四,〇二〇	
二六	全			一二四,九九九	九四		三二二一三,九七九	四,四二〇	
二七	四三	四〇,一四七		一四〇,四九六	九,一一四		八九,〇五五	一八八,〇〇〇	
二八	九八	四〇,二四六		一七六,八二九	一〇,八一三		一一四,七五九	二五,〇〇五	
二九	四一	五三,三四一		一三一,九四五	一一,一三二		八一,三二〇	二七,二二〇	
三〇	一四	五三,八一〇		一五三,六九七	一三,五五二		九四,三九七	二八,七七七	

三一	一二九	五五,三三九		一四一,一四三	一一,四四五		八七,五二九	一八,〇三七	五,八六七
三二	七七	四〇,五二二		一八八,四七五	一一,一一九		二三,五八二	二二,一七七	二四,六〇六
三三	一〇六	四〇,〇〇三		一四,七一九	一一二,三五五		二二,四九六	四,八七四	

是ニ依テ之ヲ觀レバ時ニ消長ナキニアラサレトモ概言スレバ皆増加漸進ノ趨勢ヲ有シ其發達進歩ノ形跡ヤ之ヲ尋ヌルヲ得ベシ玉屑糸ノ如キ亦非常ノ増加ヲナシ頗ル有望ノ生産品タルノ地位ニ達シ決シテ忽諸ニ付スベカラザルナリ

尙\*三十三年度重要物産調ニヨレバ

種別	産	額	價		格		單	價
			三十二年	三十一年	自廿二年 至卅二年 均平	三十二年		
生糸	一四,七〇〇	三二,七〇〇	八,六四,三〇〇	五,三三,六五三	四,三六九,九七三	六九,〇〇〇	三二,七〇〇	三二,七〇〇
屑糸	五,二〇〇	一三,〇五六	一,〇〇三,三七七	五,三三,六五三	四,三六九,九七三	一七,七七七	一三,〇五六	一三,〇五六

ニシテ生糸ノ本縣主要生産品タルヲ知ルニ足ルベク明治三十一年ニ於テ五百萬圓餘ナリシモノ超テ明治三十二年ニ於テハ殆ント一千万圓ニ垂ントス又盛ナリト謂フベシ而モ其大部分タルヤ農家婦女ノ繰手ニヨリテ成ル豈驚カザルベケンヤ

今マ福嶋町油井商店ノ調査ニ拘ル累年相場ノ高低并ニ其平均ヲ示セバ左ノ如シ



年次	三月		四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月		十一月		十二月	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
三	四、七〇	四、四〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
十	四、四〇	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
二	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
年	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
三	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
十	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
三	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
年	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
三	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
十	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
四	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
年	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
三	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
十	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
四	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
年	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
三	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
十	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
五	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇
年	四、五五	四、〇〇	四、五五	四、〇〇	四、八〇	四、六〇	四、九〇	四、七〇	五、〇〇	四、八〇	五、〇〇	五、二〇	五、〇〇	五、二〇	五、三〇	五、五〇	五、七〇	五、四〇	四、七〇	四、七〇

右ハ折返絲一頭馬首印九貫匁ニ對スル直段ナリ即四、五五八九貫匁ニ付キ四百五十五圓ナルヲ示シタルナリ

第二節 需要先

當縣産スル所ノ生糸ハ勿論當地絹織物ノ原料ニ使用セラル、ト雖ドモ其絹織物ノ産額ヤ三百万圓内外ニ過ギズ而モ生絲ノ産額ハ八百万圓有餘ニ出ツ從テ其餘ス所頗ル大ニシテ勢ヒ是ヲ他地方ニ向テ輸出セザルベカ

ラザルナリ然リ而シテ其輸出先ハ海内各地並ニ海外殊ニ米國ニアリトス米國行ノモノハ其品質ノ佳良ニシテ優等ナルモノナリ

海内ニテハ福井石川兩縣地方ニテ織物ノ原料トシテハ大ニ賞用セラル、ノミナラズ上州米澤八王子京都等ニ向テ輸送セラル是レ當地産ノ一ハ坐繰ナルガタメ毛バ立タザルト一ハ繭ヲ蒸スノ溫度地方ニ比シテ高度即チ百四十度以上ニシテ而モ其時間モ亦長キヲ以テ練減ノ量少キニ依ル例令バ生羽二重十貫目ニ付キ三百目ノ練減ヲナスモノトセバ當地物ハ僅ニ二百五十目ニ止マルヲ以テナリ

第三節 問屋及仲買

前節生産額並ニ需要先ニ就テ述アル所アリタルヲ以テ次ニ其需要者ニ供給スル目的ヲ以テ生産者之ヲ買ヒ集ムルヲ以テ業務トスル問屋及仲買ニ付テ説カントス

固ヨリ器械生糸ニ至リテハ皆纏タル額ノ製出アルヲ以テ別ニ此等ノ者ノ手ヲ經ルヲ要セズシテ多ク直接注文ヲ受ケテ是レヲ販賣ス故ニ以下記スル所ハ皆坐繰生糸ニ關スルモノト知ルベシ

生糸業ニ於テハ絹織物業ト異リ漸ク福島町ニ於テ一二ノ合意組合アルノミニシテ他ニ完全ナル組合等ノアルナシ從テ之ガ人員戸數ヲ知ルニ由ナシ故ヲ以テ余ハ專ラ茲ニ生産者ヨリ問屋仲買ノ生絲購入ノ手續ヲ説明セントス其輸出者トノ關係ニ至リテハ後節輸送ノ部ニ譲ルベシ

問屋ハ出張シテ民家ノ店頭ヲ借り受ケ自己ノ商號商標ヲ顯セル旗幟ヲ懸シ聲ヲ揚ケテ以テ客ヲ引ク地方農家ノ老若男女ハ互ニ自己ノ積日ノ勞ニ成レル數括或ハ十數括ノ生糸ヲ持來リテ是ヲ自己ノ欲スル店ニ持參ス間屋仲買ノ出張員ハ是ヲ檢シテ双方ノ合意ヲ以テ價格ヲ定メ以テ賣買取引セラル此等取引ハ概ネ二三時間ニシテ結了セラル蓋シ未明燈火ニ依テ檢スレバ日中ヨリモ生絲良好ニ見ユルヲ以テナリ加之劈頭第一ニ賣却スル者ハ問屋ノ之ヲ高ク買フノ習慣アルニヨル其生産者ニ支拂フ代價ノ如キモ直ニ支拂ハズシテ自己ノ商店ノ名稱ト並ニ其買入代金ヲ記入シタル紙片ヲ與ヘ置キ取引結了ノ後ニ至リ現金ヲ引渡スモノナリ然レドモ近來ハ紙片ヲモ渡スモノ稀ナリ只問屋仲買等ノ帳簿ニ記入シ置キ賣人ヨリノ申出ニ依テ帳簿ト對照シテ現金ヲ支拂フガ如シ而モ未タ曾テ兩者ノ間ニ些少ノ錯誤ノ生シタルコトナシト謂フ各市ハ大概所謂氏神ノ祭日等ニ開カレ、モノナリ蓋シ古來田舎ノ決算ハ盆暮或ハ氏神祭日等ニナサレタリシニ起因セルモノナルガ如シ即チ積日生産セシ生糸ヲ賣却シテ以テ或ハ債務ノ償却ニ充テ或ハ日用品ノ購求ヲナスナリ今其諸市ヲ列舉シ併セテ其開場ノ場所並ニ時日ヲ示サン

名	稱	所	在	地	名	開	場	期	日
松川	權現堂	信夫		松川	村	七月	ヨリ	九、十月迄	四九ノ日
瀨庭	坂上	全		飯坂	町	八月			六ノ日
天市	王庭	全		瀨ノ上	村	七月	ヨリ	九月迄	二七ノ日
		伊達		庭坂	村	七月	ヨリ	九月迄	二ノ日
				長岡	村	七月			十一ノ日

諏訪	折	市	全	桑	折	七月	ヨリ	十一月迄	二、二十四ノ日
梁川	原	市	全	梁川	町				四九ノ日
保原	田	市	全	保原	町				二、七、五、十、ノ日
掛田	館	市	全	掛田	村				三、八ノ日
日掛	侯	市	全	川	村				一、六ノ日
川日	野	市	全	飯野	村				二、七ノ日
飲川	野	市	全	飯野	村				三、八ノ日
富野	野	市	全	飯野	村				三、八ノ日
二本	宮	市	全	二本	町	七月	ヨリ	十月迄	四、九ノ日
小宮	濱	市	全	小宮	村	七月	ヨリ	十一月迄	三、八ノ日
針道	道	市	全	針道	村	七月	ヨリ	十一月迄	二、七ノ日
馬道	乘	市	全	針道	村				四、九ノ日
百須	賀	市	全	須賀	村				三、八ノ日
竹貫	貫	市	全	須賀	村				三、八ノ日
生春	絲	市	全	石川	村	七月	ヨリ	九月迄	五、一〇ノ日
三春	春	市	全	石川	村				一、六ノ日
糸春	春	市	全	三春	町				二、七ノ日
生春	春	市	全	小野	町				五、十ノ日
生春	春	市	全	常盤	村				一、六ノ日

生糸市	石城	平	甲六月ヨリ九月迄	二、七ノ日
久野市	双葉	久ノ濱村	乙七月ヨリ九月迄	五、十ノ日
廣野市	全	廣野村		三、八ノ日
上岡市	全	上岡村		二、七ノ日
富岡市	全	富岡村		四、九ノ日
木戸市	全	木戸村		一、六ノ日
川内市	全	川内村		四ノ日
新山市	全	新山村		三、八ノ日
浪江市	全	浪江村		五、一ノ日
熊野市	全	熊野村		二、七ノ日
小高市	相馬	小高村		五、十ノ日
原町市	全	原町		三、八ノ日
鹿島市	全	鹿島村		二、七ノ日
中山市	全	中山村		五、十ノ日
山中市	全	山中村		四、九ノ日

總計三十九ヶ所ナリトス右ノ内權現堂市天王市諏訪市等最モ名アリ天王市ノ如キ毎回ノ取引高百二十個ニ万圓以上ノ巨額ニ達ス

諸テ此等諸市ニテ買入タル生糸ハ其種類極メテ複雑ニシテ一定セザルヲ以テ豫メ其善惡良否ヲ檢シテ之ヲ

種別シ直ニ生絲荷造所ニ送リテ荷造ヲナサシム

而シテ荷造所ニ托送ノ上ハ荷造所ハ更ニ之ヲ精細ニ點檢シテ種別シテ以テ荷造シ何時ニテモ是ヲ他地方ニ出スヲ得ル様ニナシ問屋ニ通知ス問屋ハ是ニ依テ各地ニ輸送スルナリ故ヲ以テ自家ニ倉庫ノ必用等更ニナシ故ニ當業者曰ク生絲業ヲ營ムニハ莫大ノ取引ヲナスモノモ其店頭ハ僅ニ膝ヲ容ル、ノ餘地アレバ可ナリト眞ニ當レリト謂フメシ郡山地方ニ於テハ眞製社ノ如キ繭ノ儘買入テ是ヲ各小量宛近傍ノ子女ニ渡シテ是ヲ坐繰セシメ出來ノ上ハ是ヲ持參セシメ其繰上ケタル數量ニ由テ賃錢ヲ與フルコトニナセル所アリ此等ノ者ニ於テハ固ヨリ市場ニテ買求ムルヲ要セザルナリ而モ荷造所アリ二三工場ニテ供有ス

荷造所 荷造所ハ問屋ノ依頼ニ應シテ生絲ノ品位ヲ檢定シ一定ノ標準ニ依テ之レヲ種別シ更ニ之ニ一定ノ荷造ヲ施シ以テ賣買ニ便センガ爲メニ設置セラレタルナリ而モ皆ナ生絲商ノ合同シテ相互ノ利益ヲ計ランガ爲メニ組織セルモノナリ本縣ノ如キ坐繰生絲業ノ盛大ニシテ器械生絲業ノ振ハザル國ニ於テハ當然起ルベキ機關ニシテ其醸ス所ノ利益亦少カラザルナリ今縣下ニ於ケル荷造所ノ主タルモノヲ舉グレバ次ノ如シ

名稱	一ケ年ノ荷造高	場所	創立年月	資本金額
協立合名會社	四、〇〇〇	福島町	二六。三	一、〇〇〇
共同生絲荷所	六、〇〇〇	同	二二。六	一八、〇〇〇
交進會社	未詳	二本松町	三〇。一〇	九〇〇
良製合資會社	二、〇〇〇	郡山町	二三。七	七、〇〇〇

右之内共同荷造所最モ古ク其基礎亦確實ナリトス

第 號	明治參拾 年 月 日
一折返生糸	個
量目	寄托者 氏名
原價	
姫達摩	一頭馬首
凡十分ノ	二頭馬首
	三頭馬首
	凡十分ノ
	凡十分ノ
	凡十分ノ
保險會社	橫濱火災運送保險株式會社及東京火災保險株式會社
保險金額	一金
債權者	銀行名

荷 預 り 證 券

第 號	寄托者 氏名
印 紙	住 所 字
貳 錢	國 郡
	番 地

一折返生糸	個
正味量目	
原價	
品 質	姫達摩
柄名	一頭馬首
凡十分ノ	二頭馬首
	三頭馬首
	凡十分ノ
	凡十分ノ
	凡十分ノ
保險會社	橫濱火災運送保險株式會社及東京火災保險株式會社
保險金額	一金
保險期間	當會社在庫中

右ハ左記約定ニ從ヒ荷造方御依頼相成候ニ付當會社所有倉庫内ニ前記ノ貨物正ニ預リ申候荷  
造出來ノ上ハ貴殿又ハ貴殿指圖人へ此證券引換御渡可申候也

明治參拾

年 月 日

岩代國信夫郡福島町字大町七十八番地

會社 共同生糸荷造所

支配人

約 則

一當會社ハ當會社荷造規定ニ基キ生糸ヲ改造精撰ノ上左記商標ヲ貼付スルモノトス  
 金 盃 姫達摩 一圓馬首 二頭馬首 三頭馬首 鷄  
 但以上ニ合格セサルモノニハ蝶印又ハ象印ヲ附スルモノトス  
 一荷造出來ノ上ハ荷主ノ請求ニ依リ荷造證明書ヲ發行シ其品位個數量目等ヲ正確ニ證明スルモノトス  
 一荷造料ハ壹梱金 ノ割ニテ生糸出庫ノ際寄托主ヨリ申受クルモノトス  
 一當會社ハ生糸預リ中天災地變其他不可抗力ニ基因スル場合ヲ除クノ外火災盜難詐取紛失鼠喰濡霑其他  
 社員ノ不注意ニ依リ生シタル一切ノ損害ニ對シ辨償ノ責任ヲ負フモノトス特ニ火災保險ニ對シテハ券  
 面記載ノ日歩保險ヲ要約シ置クモノトス  
 一前項ノ損害ニ對シ當會社ノ資産ヲ以テ辨償シ能ハサルトキハ當會社社員ハ連帶無限ノ責任ヲ以テ辨償  
 スルモノトス  
 一第一質權者タル銀行及其以後ノ銀行ハ何時ニテモ行員ヲ派出シ生糸ノ監視ヲ爲シ得ラル、モノトス

質權ノ設定シタル場合

本證券ハ振出人 ヨリ受取人  
 殿へ宛テタル明治參拾 年 月 日付第 號  
 約束手形ノ擔保物トシテ債權者 殿ノ爲質權

ヲ設定致候也

明治參拾 年 月 日 債務者

右質權設定ノ儀承諾候也

明治參拾 年 月 日

貳 錢  
印 紙

合資 共同生糸荷造所  
支配人

前記約束手形ハ

殿ニ於テ再割引相成候ニ

付其擔保物トシテ自今本證券ハ債權者

殿

ノ爲質權ヲ設定致候也

明治參拾 年 月 日 債務者

右質權設定ノ儀承諾候也

明治參拾 年 月 日

貳 錢  
印 紙

會社 共同生糸荷造所  
支配人

合場ルス渡讓ヲ物貨ヲシスセ定設ヲ權買

表面ノ貨物	明治參拾 年 月 日	又ハ其指圖人へ御渡可被下候也
表面ノ貨物	明治參拾 年 月 日	又ハ其指圖人へ御渡可被下候也
此證券記載ノ貨物正ニ請取候也		
明治參拾 年 月 日		
會社 共同生糸荷造所 御 中		

此等各社ニテハ荷主ヨリ荷造ノ依頼ヲ受クレバ豫メ品位ヲ定メテ部類シ是レガ預リノ證トシテ預リ證券ヲ渡ス其雛形右ノ如シ

而シテ預リタル生絲ハ數十名ノ工男工女ニ依テ再三再四精細ニ點檢セラレ數次ノ段階ヲ經テ最后ニ支配人ニ依リ更ニ詳細ニ檢査セラル而シテ后初テ完全ナル荷造ヲナス即折返シ造ハ大凡四百五十目ヲ一柵トシ二十柵ヲ一柵トシ捻造最上等品ハ大凡八百忽ヲ以テ一柵トシ十五柵ヲ以テ一柵トス一柵ノ重量ハ大凡九貫目トス然レ其品種ノ定メ方ニ至リテハ各社固ヨリ其名稱ヲ異ニス即共同荷造所ニテハ

金 盆。 姫達摩。 一頭馬首。 二頭馬首。 三頭馬首。 鷄。

ノ六等ニ分チ以上ニ合格セザルモノニハ蝶印又ハ象印ヲ付スルナリ 然ルニ共同荷造所ニテハ

特別優等	折返造	旭	鶴
優等	全	一	娘
一等	全	二	娘
二等	全	三	娘
三等	全	牡	丹
四等	全		

場脇生絲

優等	一等	二等	三等
番	番	番	番
			折返シ
金	頭	頭	頭
時	熊	熊	熊

ニ分ツ而シテ其外國ニ輸出セラルモノハ、(SY)旭鶴一人娘二人娘三人娘造ニシテ他ハ内地用ニ供セラル、モノナリ又場脇生絲トハ秋田關東ヨリ來ル生糸ヲ指示シ當地産トノ間ニ區別ヲナス  
又郡山ニ於ケル白河ノ小峰生絲場ト郡山町ノ眞製社正製組ノ共同ニ成ル良製合資會社ニテハ等級ヲ凡テ九等ニ分ツ

甲優	良好	等
一	二	三
四	五	六
七	八	九
外	等	
同	同	同
娘	曲	紅
モ	、	葉
チ	ツ	
ヤ	馬	ク
一	二	三
三	二	一

内地用

以上各品種ニ分別シテ荷造ヲ終レハ之ヲ倉庫ニ保管シテ各荷主ニ通告シ其引出ヲ俟ツ荷主ハ必要ニ應ワテ其引出ヲナス然レトモ一定ノ時日ヲ經過シタル後猶ホ荷主ニ於テ其引出ヲナサ、ルトキハ別ニ一日十錢ノ保管料(一個)ヲ徴收ス其荷造料ハ各社隨時定ムル所ニ依テ一定セスト雖トモ共同荷造所ニテハ現時一捆ニ付キ金四圓二十錢ノ荷造料ヲ徴收セリ

荷造所ノ便益 坐繰生絲ニアリテハ固ヨリ器械生絲ト異ナリ品種一定セサルヲ以テ必ヤ是ヲ集散離合シテ一定ノ種類ノ下ニ置カズンハ賣買ニ當リテ非常ニ不利不便タルヲ免レス況ンヤ同種製品ノ大取引ヲ行フ上ニ於テテヤ殊ニ然ルヲ覺ユ是レ當地ニ於テ斯ル會社ノ組織セラレタル所以ニシテ其結果頗ル良好ナリ從テ生絲業ニ於テハ時ニ消長浮沈アリト雖トモ斯ノ事業ヤ年ヲ逐フテ益隆盛ヲ極ム而シテ是カ爲メ各生絲商ハ自家ニテ荷造ヲナスノ煩ナク又之ガ爲メニ倉庫等ヲ有スルノ必要ナシ殊ニ最モ便利ヲ受クルハ一二僅少ノ捆ヲ有スル荷主ナリトス何トナレハ其僅少ナルモノモ他ノ製品ト同シク一樣ニ荷造セラレ一定ノ商標ノ下ニ賣買取引セラル、ヲ以テナリ猶ホ生絲商ノ最大利便ヲ感スル點ハ預リ證券ニ在リ抑モ此預證券ハ恰モ倉庫會社ノ質入證券ト同一ノ性質ヲ有スルモノニシテ是ヲ以テ其生絲ノ權利ヲ讓渡スルコト能ハスト雖トモ其品ニ對シテ質權ヲ設定スルヲ得ルモノナリ從テ銀行ヨリ金融ヲ得ル便アルノミナラズ日本銀行ハ之ニ向テ再割引ヲナスト謂フ

製糸改良ニ就テ荷造所ノ盡ス所ハ中々至大ナルモノニシテ福島ノ協立荷造所共同生絲荷造所ノ兩者ハ互ニ聯合シテ其發達進歩ヲ計リ毎年其各地産出ノ生絲ニ鑑ミテ其缺點ト並ニ重ンズベキ點トヲ記載セル勸告書ヲ

作リテ各生産者ニ配布シテ其注意ヲ喚起セシム斯ノ勸告書ハ頗ル吾人ノ參考トナルベキモノアルヲ以テ茲ニ  
録ス

勸告書

廿七八年役戰勝ノ結果社會經濟ノ膨脹ヨリ内地絹織物殊ニ縮緬ノ流行トナリ之ニ次クニ輸出羽二重ニ  
一本緯ヲ織ルノ悪習ヲ來セシガ爲メニ太筋生絲ノ需要ヲ増加シ其價細絲ヲ凌クノ觀ヲ呈シタリシ然ルニ今  
ヤ全國到ル處不景氣ノ聲ヲ高メ恢復ノ期那邊ニ在ルヲ知ル能ハザルニ至リ次ニ輸出羽二重モ福井金澤ノ如  
キハ細筋ノ絲二本乃至三本ヲ緯ニ織ルト云フ事ニナリシヨリ太筋生絲ノ需要頓ニ減少シ現時折返一等銘  
(金盃ニスワイ)ト六等銘(鷄牡丹)トハ實ニ百三拾圓(九匁)ノ價格ノ差ヲ見ルニ至レリ本年モ最早新絲ノ  
季節ニ接シタレバ昨夏以前太筋生系高價ノ舊夢ニ戀々セズ左ノ注意ニ基キ細筋ノ生絲ヲ製造セラレシ事希  
望ノ至ニ堪ヘス無言ヲ呈スルコト爾リ

注意

- 壹 繭ハ上簇後八日目ヨリ遅クモ十一日迄ニ必ラズ蒸殺スベシ是ヨリ後ル、時ハ雄蛹ノ繭ノミ早ク乾燥シ  
テ雌蛹ト蛆蛹ノ繭トハ乾燥後ル、ガ故ニ繭ヲ損スル事多シ
- 貳 繭ノ撰擇ヲ嚴ニスベシ先ツ皮ハ厚薄ヲ分ク次ニ一ツ親ト唱フル九キモノト尖リタルモノト死籠トヲ除  
キ去ルベシ九キモノト尖リタルモノハ額節ヲ多カラシメ死籠ハ一粒ニテモ全部ノ光澤ヲ減スベシ
- 三 壹總ノ生絲ニ細太ナキ様注意ヲ怠ラザルベシ(デニール)細向ハ十一二(普通青熟四粒附位)太タモ十四
- 五(同上五粒附位)ヲ適當トス

- 但シ繭ノ末口即チ薄皮トナリタル者ノミハ必ズ別ノ粹ニ繰ルカ又ハ新ニ煮タル繭ニ交ヘテ繰ルベシ如  
何ナレバ末口ノミヲ繰ル時ハ五六粒附テモ忽チ二三粒トナル故自然多ク附ルニ至ル僅ニ二三分乃至四  
五分目ノ絲ノ爲ニ一總全部ノ品位ヲ二等三等ト落シテ商標ヲ附スルノ止ムナキニ至ル實ニ残念ノ事ナ  
レハ別粹ニ太ク繰ル事ニ願ヒタシ(細ク繰レバ絲ニムラアリ再繰困難ナリ)
- 四 燥湯ノ熱度高キニ過レバ表裏ノ光澤ト硬軟トヲ異ニスルノ憂アリ(手ヲ入レテ置クニ堪フルヲ度トス)
- 五 煮水ヲ捨テズ他ノ器物ニ取り置キ別ニ燥湯ヲ沸シ煮水四分ノ一乃至三分ノ一位ヲ加ヘ夫ニ煮タル繭少  
シツ、入レテ繰ルヘシ湯濁ラバ時々取替フベシ
- 六 繭ノ煮方ハ堅ニ三四分浮キテ六七分沈ム位宜シ横ニ浮キタル繭ヨリ絲ヲ繰レバ輪節ト附節等非常ニ多  
シ殊ノ煮練ニ白キニアラザレハ眞ノ光澤ニアラズ
- 七 小粹(繰粹)ニ水氣ノアル内ニ揚返ス時ハ粹角ニ堅ク附着シテ甚宜シカラズ小粹ニテ十分ニ乾カセバ十  
分ニ濡シテ揚返スモ粹角決シテ堅クナラス(二度繰ナラハ中粹ニテ乾燥シテモヨシ)最モ揚返ハ手振ヲ  
完全ニシ十分ニ絞ヲトルヘシ而シテ一總ノ量目ハ十匁ヲ目的トシ十二總ヲ一把トスルヲヨシトス  
但シ一總十五六匁以上アルモノ在リ之レハ何程優等ニテモ輸出ニハ適セス内國用トシテ廉價ニ賣拂ヨ  
リ外ナシ
- 八 口留ハ表裏ノ兩端ヲ合セ編ミタル所ヨリ一寸位ヲ離シ一總ノ中央ヲ卷クベシ



九 編系ハ框角ヨリ二寸位ヲ離シテ五ツ、ニ編ムヘシ

但シ編系及力系ハ必ズ水淺黃極細(三十二手二子系)木編系一本ニ限ルベシ二本トナシ又ハ太糸(十六手三子)ナレバ荷造ノ際悉ク取替ルノ手數ヲ要スルノミナラズ之レガタメ損シ糸ヲ出スノ恐レアリ

十二ツ口ニテ糸ヲ繰ル事追々増加シ隨テ粗製ノ絲増加シ來レリ何卒二ツ口ニテ糸ヲ繰ル事ハ廢テ戴タシ

十一 揚返シニ二本口ノモノアリ荷造ノ際非常ニ注意スルモ萬一見落シヨリ機業者ノ手ニ入りテ發見セラ

ル、時ハ折返糸全部ノ信用ヲ落スモノナレバ能々御注意ヲ願ヒタシ

十二 生糸ノ最大缺點ハ類節ト細太不同ナルトニアリ此點ヲ特ニ工女ニ教誨セラレタシ

右ノ外連屬系其他アンツメ又ハ結ビ端ヲ剪ヒザルモノ切レタル時結バズシテ揚返シタルモノニ能々御注意ヲ願タシ

岩代 福島町

三十四年六月

共同生絲荷造所  
協立生絲荷造所

猶賞與規定ヲ設ケ年々優等品ヲ製出シタル者ニ賞品ヲ授與セリ本年ノ如キ之ガ撰ニ當リシモノハ銀盃ヲ授領シ大ニ面目ヲ施シタリト謂フ吾人ハ此等ノ舉ノ本縣生絲業ヲ誘導利發スル上ニ於テ至大ノ効績アルヲ信シテ疑ハザルナリ

### 第四節 輸 送

荷造ノ一事ハ前節既ニ説キシ所ナリ器械生絲ノ荷造亦同ク九貫目ヲ以テ一捆トシ通ヒ袋ニ入レ之ヲ箱入トシ油紙ヲ以テ包ミ繩ヲ以テ之ヲ覆フ荷造終レバ其外國ニ輸送セラル、モノハ皆横濱ノ賣込商人ノ手ニ輸送セラル而シテ器械生絲ハ重ニ横濱生絲合資會社ニ送ラレ坐繰生絲ハ多ク安西澁澤等ノ諸商店ニ向ケ送付セラ、ル、カ如シ然リ而シテ其取ル所ノ運搬機關ハ地勢上皆涼車便ニ依ル先ツ注文ニ應シテ商品ヲ輸送スルニ就テハ豫メ銀行ト荷爲替ヲ取組マザルベカラズ而シテ其歩合ハ大凡ソ七掛八掛ニシテ福島ニ於ケル諸銀行ノ定ムルモノ如左

金融依然不圓滑ニシテ金利益騰貴ニ付不得已同業者協議ノ上六月廿日ヨリ左ノ通引上ケ改正仕候

#### 抵當貸利息割合

- 一生系 玉系
- 一屑系
- 一穀類
- 一肥料

日歩參錢六厘ヨリ參錢八厘

日歩參錢八厘ヨリ四錢

荷爲換打歩

一東	一橫	一名	一京	一八	一桐	一足	一前	一福	一金	一越	一越	一越	一米	一仙
京	濱	古	都	王	生	利	橋	井	澤	中	前	後	澤	臺
五日目	五日目	七日目	七日目	五日目	五日目	五日目	七日目	七日目	七日目	八日目	八日目	八日目	三日目	五日目
生糸	糸												糸	
參拾六錢	參拾九錢	四拾六錢	四拾六錢	四拾四錢	四拾四錢	四拾四錢	五拾壹錢	五拾壹錢	五拾壹錢	七拾錢	七拾錢	七拾錢	貳拾八錢	四拾八錢
ヨリ參拾八錢	ヨリ四拾壹錢	ヨリ五拾錢	ヨリ五拾錢	ヨリ四拾八錢	ヨリ四拾八錢	ヨリ四拾八錢	ヨリ五拾六錢	ヨリ五拾六錢	ヨリ五拾六錢	ヨリ參拾參錢	ヨリ參拾參錢	ヨリ參拾參錢	ヨリ參拾貳錢	ヨリ參拾八錢

一郡 山 貳拾八錢ヨリ參拾貳錢  
 一川 俣 三日目  
 一三 本 松 三日目

一 割引料百圓ニ付京都五日目參拾八錢ヨリ四拾參錢  
 以上一日毎ニ金四錢増以下一日毎ニ金參錢減  
 一 生糸類抵當貸及荷爲替價格共時價八掛以內米穀肥料類ハ時價七掛以內ノ事

右御了承可被成下候也

明治參拾四年六月廿日

合名 安田銀行福島支店  
 株式 第百七銀行  
 株式 福島商業銀行  
 會社

然リ而シテ橫濱ニ至ルノ運賃ハ地ノ異ナルニ從テ異ナリ一様ナラズ

白河ヨリ保險料運賃共	一	捆	一圓五十錢
福島ヨリ運賃	同		一圓二十錢
保險料	一千圓ニ付	八	十錢

金融保險並運送屋等ニ付テハ機業ニ於タルモノト同ク故テ以テ之レヲ茲ニ省ク

此他工女取扱獎勵等機械業ニ關スルモノニ比スレバ完備セル點極メテ多シト雖トモ餘リ重要ナル事ニモ屬セザルヲ以テ茲ニ之レヲ略セリ

### 第九章 結論

以上數章ニ於テ本縣機械業ノ概況ヲ説キ終リタルヲ以テ茲ニ聊カ余ガ本縣斯業ニ對スル希望ヲ陳述シテ以テ本編ヲ終ラントス

吾人ガ本縣機械業ニ對スル希望ヤ極メテ夥多一々是ヲ枚舉スルニ遑アラズト雖トモ大約シテ次ノ三點トナスヲ得曰ク三組合ノ合同ヲ謀ルコト曰ク練業者ヲ増加スルコト曰ク勞働時間ノ短縮ヲナスコト是ナリ左ニ聊カ之ヲ説明テナサン

#### 三組合ノ合同ヲ謀ルコト

抑モ同業組合ノ目的タル組合員ノ協同一致ヲ以テ營業上ノ弊害ヲ矯正シ進ンテ其組合員相互ノ利益ヲ増加スルニ在リ則チ内其基礎ヲ固メテ以テ外ニ當タラントスルニ外ナラズ蓋シ單獨ナランヨリハ協同團結シテ事ニ當ルノ優勢ナルヨリシテ來ルモノニシテ理ノ正ニ然ルベキ所ナリ故ヲ以テ組合地域ノ廣狹組合員數ノ多少ハ其目的ヲ成功スルニ於テ至大至重ノ關係ヲ有セズンバアラズ從テ同一地方ニシテ同業同種ノ組合ノ數多アルハ相互ノ利益上大ニ之ヲ避ケズンバアルベカラザルナリ如何トナレバ是レ一團ノ大勢力ヲ故意ニ個々ノ小勢力ニ分割シテ以テ其對外勢力ヲ自然的減殺スルガ故ナリ殊ニ同種同業ニシテ同一ノ目的ヲ有スル數多ノ組合相接近スルニ於テハ或ハ感情上ヨリ或ハ利害ノ關係上ヨリシテ相互間ニ種々關係ヲ成サシメ其關係ノ愈々

複雑ニ赴クニ及ンデハ遂ニ軋轢ヲ來シ衝突ヲ起ス諺ニ所謂兄弟墻ニ鬩グモノニシテ其失態モ亦是ヨリ大ナルハナシ勢ヒ茲ニ至レバ其組合ノ本分否目的ノ如キ全ク忘了セラル、ニ至ラン是レ吾人ノ最モ恐怖寒心スベキ所ニシテ又特ニ注意セザルベカラザルノ點ナリトス故ヲ以テ近接地方ニ散在スル同種同目的ヲ有スル組合ハ必ズ互ニ合同シテ協心戮力事ニ當ルノ策ニ出ザザルベカラザルナリ之レ只各自ノ利益ノミナラズ其業全般ノ利益ナレバナリ本縣ノ如キ恰モ此嫌ナシトセズ福島組合ハ縣内ヲ四周シテ田村川俣兩組合ニ肉迫セルガ如ク田村川俣兩組合モ亦兩々相讓ラズ虎視眈々トシテ相睥睨セルガ如シ斯ノ如クシテ進マンカ焉ソ夫レ能ク融合同シテ組合ノ本旨ヲ全フスルヲ望ムヲ得ンヤ是レ余ガ將來益發達シ改良スベキ斯業ニ向テ大ニ惜ム所ニシテ一日モ早ク三者ノ合同シテ一組合タラントヲ希望スル所以ナリ若シソレ三者合同シテ一トナランカ其享受スベキ利益タル豈當ニ上來説ク所ニ止マランヤ組合ノ經費ヲ減少スルヲ得テ從テ老練敏腕ノ高級役員ヲ雇使シ組合ノ事務大ニ舉ルベシ(一)統一的ニ事務行ハル、ヲ以テ組合ノ規約ヲ勵行スルニ便ナリ故ニ組合活動スベシ(二)他ニ同種ノ組合否ナ軋轢ヲ來スベキ外物ナキヲ以テ専心事ニ從事シ對外勢力強大ナリ(三)此他數ハ來レバ其利點タル實ニ少々ニアラズ

然リ而シテ三組合中福島組合ハ其最モ新キモノナリト雖トモ有識ノ士ニ乏シカラズ縣下斯業全般ノ利益ニ鑑ミ其合同ヲ計ラントシ合同ニシテ若シ成ラズンバ聯合會ヲ組織シテ以テ其統一ヲ計ラントシ大ニ斡旋セル所アルガ如シ聊カ以テ意ヲ強スルニ足ル、然レトモ反對者ノ勢力ヤ頗ル強大ニシテ是ガ實行ヤ極メテ困難ナルアリ而シテ其反對者ノ理由トスル所ハ種々アリト雖トモ要スルニ

(一)理想ト實際トハ必ズシモ常ニ相一致スルモノニアラズ理想上如何ニ良好ナリトテ決シテ實際上亦適切善良ナルモノナリト謂フベカラズ殊ニ地方ニハ其地方特有ノ慣習アリ俄ニ之ガ變更ヲナス能ハズ

(二)一小地方ナルガ故ニ幾多辛若ノ結果漸ク組合ノ成立ヲ見タリ然ルニ組合組織後未タ幾年ナラザル今日ニ於テ全縣合同等ノ事ヲ行ハントスレバ人心ノ動搖ヲ來シテ現在ノ組合ノ成立スラモ危殆ナラシム故ニ不可ナリ

ノ兩點ニ歸着スルガ如シ蓋シ孰レモ感情上ヨリ來リタル區々偏見ニ過キズシテ共ニ正當ナル根據ヲ有スルノ理由トスル能ハズ則チ知ルニ組合ノ既ニ已ニ前述兄弟墻ニ関クノ病魔ノ襲フ所トナレルヲ故ニ余ハ益々合同ノ一日モ早く成リテ此恐ルベキ忌ムベキノ疾病ヨリ離脱センコトヲ希望スルヤ切ナリ

練業者ヲ増加スルコト

抑モ本縣羽二重ノ蠶キニ練賣買ヨリ變シテ生絹賣トナリシヨリ以來因襲ノ久シキ遂ニ俗ヲナシ今日ニ至リテ猶未ダ其境域ヲ脱スル能ハズ今猶ホ全産額ノ六七分ハ更ニ生絹賣買スル所ニ關ハル是ヲ以テ當事者ノ練賣買ヲ恢復セント企圖スルヤ久シ而シテ其練賣買ノ振ハザルハ固ヨリ從來ノ因襲ノ與ツテカアルヤ論ナシト雖ドモ亦整練ノ機關ノ乏シキガ爲メ不知不識ノ間ニ生絹賣買ノ根底ヲシテ益深カラシメタルナルヤモ未俄ニ知ルベカラザルナリ若松小高等練業ナキノ地方ニ其多キヲ見テモ其間ノ消息ヲ窺フニ足ラン

既ニ第二章第三節ニ於テ述ベシガ如ク本縣ノ練業者ハ僅々川俣町ニ二者アルノミ而モ孰レモ僅ニ三四釜ヲ有スルニ過ギズ而シテ羽二重ノ産額ハ年々三百萬圓ニ垂ントス是ヲ聞クモノ誰カ其不權衡ノ甚タシクシテ當

事者ノ冷々淡々タルニ驚カザランヤ元來羽二重ノ物タルヤ整練シテ後始メテ使用セラル、モノニシテ其品位ノ良否ノ如キモ練リテ後チ茲ニ始メテ充分ニ鑑別スルヲ得ルモノナリ實ニ生絹ノ状態ニ在テハ充分ニ之ヲ識別スルヲ能ハザルナリ故ニ製品ニ對シテ有効ナル検査ヲ施行セントセバ練上ノ後チナラザルベカラズ從テ生絹ニ對スル検査ハ斯業ノ改良達發ノ上ニ於テ未ダ有効ナルモノト謂フベカラザルモノナリ誠ニ現今組合検査所ニ於テ行ハル、検査ノ如キハ一ノ形式ニ止マリ未ダ其實ヲ舉グルニ足ラザルナリ況ンヤ僅々一兩時間ニ數百千ノ檢點ヲ唯肉眼のニナスモノナルニ於テチヤ近時有力者間ニ生産者ヲシテ練上賣買セシムルコト現在生絹ヲ賣買スル如クシ問屋ノ手ニ渡ル經過ノ中途ニ於テ練上品ヲ検査セント議スル者アリ此方法ニ依レバ不正品ノ責任者ヲ知ルニ容易ニシテ從テ制裁ヲ有效ニナスヲ得ベク一應理トスル所ナキニアラズト雖トモ少シク考アルトキハ未ダ俄カニ首肯スル能ハザルモノアリ蓋シ機業ニシテ工場の大規模ニ營マレ一ヶ所ニ於テ多數生産ノナサル、地ニ於テハ此事必ズシモ不可ナルナク又行ハレ難キニアラザレトモ其副業的家内工業タル當地機業ニ於テハ到底謂フベクシテ行ハレザルナリ見ヨ彼等ノ多クハ僅々一本ヲ織ルノ原料ヲサイモ前借スル如キ薄資者タラズヤ焉ソ練上ケヲ爲シ若シクハ其練上ヲ終ル迄待チ得ルノ餘裕アラシヤヨシ一步ヲ讓テ假リニ生産者ヲシテ此餘裕アルモノトスルモ一疋ニ疋宛個々別々ニ練上ヲ依頼スルヲ以テ練業者ヲシテ練上ケ以外ニ時間ヲ空費スルコト大ナラシメ從テ多數ノ練上ヲナスコトヲ得ザラシムベク一層練業者ノ増加ヲ計ラザルベカラザルナリ

其練上ケノ生産者ニ依リテナサル、ト買糴商ニ依リテ成サル、トヲ問ハズ茲ニ余ハ先ツ練業者ヲ増加セン

コトヲ欲スルモノナリ斯ノ如クシテ初テ練上品ニアラザルモノノ域外ニ輸出セラル、ヲ禁ズル規約ヲ設ケ得  
 ベク又是ヲ勵行シ得ベシ且ツ生産者ヲシテ豫メ製品ノ織耳ニ其姓名ヲ織込マシムルコト、スレバ練上品ノ誰  
 ニ依テ賣買ガ行ハル、共其責任者ヲ見出シテ相當ノ制裁ヲ加フルコト決シテ難カラザルナリ故ニ整練ヲ生産  
 者ニナサシムルト謂フガ如キ抑モ未ナリ要ハ唯練業者ノ増加シテ以テ整練ヲ依頼スルニ不足ナカラシムルニ  
 アルノミ以テ充分ナル検査ヲナシ得ベク從テ之ガ改良ヲ期スルヲ得ベシ

#### 労働時間ノ減縮

労働時間ノ長キ必ズシモ労働ノ効驗ナリト謂フ能ハズ却テ短キ労働時間ヲ有スルノ労働者ガ長キ労働時間  
 ヲ有スル労働者ヨリモ多クノ生産ヲナスモノナリ例令ハ歐米諸州ノ労働者ガ本邦ノ労働者ヨリ労働ノ時間短  
 キニ拘ハラズ猶其効驗ノ多大ナルガ如シ此レ其實銀多クシテ身体ノ滋養充分ナルヲ以テ体健ニ労働時間短ク  
 シテ休息ノ時限定マレルヲ以テ心神快活ナルノ結果ナラズンバアラズ

是ヲ以テ本縣労働者ニ徴スルニ川俣地方ノ工女ノ如キ實ニ前章ニ説キシガ如ク食事時間トシテ一日二時間  
 ナ引クモ猶ホ其勞務ニ従事スル時間一日十五時間以上ニ亘リ是ヲ泰西ノ所謂八時間労働主義ニ比スルニ實ニ  
 其二倍ナリトス換言スレバ休息安意ニ屬スベキノ時間ハ悉皆滅殺サレタルモノト謂ハザルベカラズ加之其平  
 常食トスル所ノモノヤ極メテ粗蕪ナリ何スレゾ其能ク体軀ノ健康ヲ維持シ誠心精意製織ニ従事スルヲ得マヤ  
 從テ其労働ノ効果タル決シテ大ナラザルナリ宜ナリ其顔色蒼白ニシテ殆ント生色ナク又自己ノ洗濯身嗜ヲナ  
 スノ暇ナクシテ汚穢ナル衣服ヲ纏ヘルモノ其大部分ヲ占ムルヤ然リ而シテ本縣羽二重ノ生産ヤ十ガ八九迄川

俣地方ニ産セラレ從テ此等工女ノ手ニ成ル而シテ工女狀況以上ノ如シトセバ其本縣製品ノ善惡良否ノ趨勢ヤ  
 未ダ必ズシモ識者ヲ待テ後チ知ラザルナリ故ニ工女ノ待遇ヤ製品ノ改良進歩ヲ企圖スル上ニ於テ決シテ一日  
 モ忽諸ニ付スベカラザルナリ論者或ハ説ヲナシテ曰ク小人閑居シテ不善ヲナス彼等ニ休息トシテ充分時間ヲ  
 與ヘンカ却テ風紀ヲ紊亂シ浪費ヲ誘致スルノ恐ナシトセズ故ニ日々忙々トシテ労働セシムルハ自然的是等  
 ノ動念ヲ消失セシムル所以ニシテ雷ニ社會ノ利益ノミナラズ又彼等工女ノ利益ナリト虛心是ヲ聞カバ理トス  
 ル所ナキニアラザレドモ是ガ眞想ヲ研ムルニ於テハ其根本ヨリ誤レルノ謬見タルヲ知ルニ難カラズ何トナレ  
 バ論者ハ教育宗教ノ力ノ以テ風紀ノ紊亂ヲ取締リ得ベキヲ覺ラズ又人ハ敢テ貯蓄ノ爲メニ生シタルモノニア  
 ラザルコトヲ悟ラザレバナリ小高地方ノ勞工ノ狀況ハ以テ小許ノ休息時間ヲ増加シタレバト決シテ以上ノ  
 如キ弊害ノ生ズルモノニアラザルヲ證スルニ足レリ故ニ余ハ本縣全般ノ利益ノ爲メ一日モ早ク當業者ノ長時  
 間ノ労働ノ非ナルヲ覺醒シテ是ヲ短縮シ長クトモ朝六時ヨリ午後ノ七八時迄トシ以テ体養身嗜ノ時間ヲ彼等  
 ニ與ヘテ精神ヲ快爽ナラシメ食物ヲ善良ニシテ身体ヲ健全ナラシメンコトヲ希望ニ堪ヘズ此ノ如クシテ労働ノ  
 効驗始メテ大ニ從テ産額増加スベク誠心従事スルヲ以テ製品ヤ良好ナラン

以上ノ外商標ノ一定徒弟ノ誘拐金融ノ整備等余ガ希望スル所ノモノ極メテ多シト雖也上記三點ハ蓋シ其主  
 要ナルモノナリ而シテ此等三項ニシテ實行セラレンカ阿武隈川ノ滾々タル清流ノ如ク千古モ流レテ盡キザル  
 豊富ナル原料ノ産出アリ又別ニ之ニ加フルニ千載熟達ノ經驗ヲ以テス其將來ノ益々隆盛ニ赴キ斯界ニ雄飛ス  
 ベキヤ期シテ俟ツベキナリ

10/35

福島縣機業調査報告書終

92  
208

11



福島県機業取調報告書

山中安躬著

043057-000-2

92-208

福島県機業取調報告書

山中 安躬 / 著

M35

BDK-0126

